

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目次

川崎市社会福祉協議会

	頁
基本方針・重点事業	1
1 法人運営事業	3
2 調査・研究事業	3
3 研修事業	4
4 企画・広報事業	4
5 区社協推進事業	5
6 助成事業	5
7 部会・委員会事業	6
8 福祉基金運営事業	9
9 資金貸付事業	10
10 共同募金事業	10
11 受託事業	11
12 ボランティア活動振興センター事業	13
13 あんしんセンター事業	15
14 地域生活支援SOSかわさき事業	17
15 総合研修センター管理経営事業	18
16 居宅介護等事業	18
17 老人いこいの家管理経営事業	19
18 老人福祉センター管理経営事業	19
19 公益事業	20
20 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	22
21 災害活動関連事業	22
22 その他	22
川崎市川崎区社会福祉協議会	24
川崎市幸区社会福祉協議会	31
川崎市中原区社会福祉協議会	39
川崎市高津区社会福祉協議会	46
川崎市宮前区社会福祉協議会	55
川崎市多摩区社会福祉協議会	65
川崎市麻生区社会福祉協議会	76

令和5年度 事業報告

基本方針

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会経済活動の正常化が期待される中、30年ぶりとなる高水準の賃上げや、企業の高い投資意欲など経済活動の回復の兆しが見え始めました。

その一方で、物価の高騰に賃金の上昇が追い付かず、実質賃金はマイナスが続いており、さらに少子高齢化を背景とした人手不足、収入の格差による生活課題、社会的孤立・孤独、医療保険・介護保険料の上昇による生活不安など、私たちの生活に直結する課題も多く残っています。

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」は石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。震災から半年が経過する現在においても、未だに倒壊した建物の対応などが十分に進まず、課題を多く残しています。特に、主要道路の被害を要因とする、人材・資材運用の困難性については、都市部広域で甚大な災害が生じた時の脆弱性を想起させるものとなっています。

私たちの身近な暮らし、災害への備えなど、地域における生活課題や福祉ニーズが多様化、複雑化、深刻化する中、住民だれもが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域づくりと包括的支援を目指し、第6期地域福祉活動計画を川崎市と相互に連携を図りながら策定しました。

川崎市との連携をさらに深化させるため、「今後の川崎市社会福祉協議会の取組と川崎市との連携に関する検討会議」の開催。また、地域福祉推進の核となり、住民に一番近い社協である地区社協活動運営を推進するため、町会、地区社協等の代表他行政職員や学識経験者にも参加していただき「地域共生社会実現に向けた地区社協活動運営推進会議」を行い、地区社協概要集を刷新しました。

さらに、困窮者支援として生活福祉資金特例貸付借受者の生活再建を支援する専門部署として生活再建支援室の設置や、多様な主体との連携による地域福祉の推進に向け、地元企業であるNECと「パートナーシップ協定」を締結するなど、様々な角度から川崎市が取り組んでいる「地域包括ケアシステムの構築」に向け事業を展開してきました。

また、令和6年能登半島地震被災地に職員を延べ5名派遣し、被災地の災害ボランティアセンター運営支援を行いました。

経営面においては、老人福祉（地域交流）センター及び老人いこいの家の指定管理者に応募し、確実に指定管理を獲得できるよう組織一体となり提案を行い、全施設の指定を受託するなど、地域に根差した活動を継続するための経営基盤の強化を意識して取り組んできました。

以下は、特に重点的に実施した事業です。

◆重点事業◆

1 地域包括ケアシステムの一層の推進

本会のネットワークを活用し地域住民、関係機関、企業のコーディネートを行い住民主体による生活課題解決にむけた取り組みを支援しました。

本会職員と行政職員との連携会議において、それぞれの事業、取組について意見交換を行い地域課題の解決に向けた連携強化を図りました。

地域福祉の推進を目指し、「みんなで支えあい ともに安心して その人らしく暮らせる 川崎のまちづくり～ともに目指す地域共生社会の実現～」を基本理念とした第6期地域福祉活動計画（令和6年度から令和8年度）を策定しました。

2 組織経営基盤の強化

経営基盤の強化と経営健全化に取り組み、介護保険等事業の経営改善に向け、人件費率の適正化、収益率の向上を目指し、人員配置・事業所体制の見直しを行いました。

生活困窮者への支援を着実に実施するため、神奈川県社会福祉協議会から生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援業務を受託し実施しました。

また、老人福祉センター、老人いこいの家については、令和6年度から5年間指定管理の事業者として指定されました。

併せて、全ての事業・予算化の精査と財源確保、人材育成計画の推進、効率的な組織運営方法などに取り組みました。

3 生活困窮者への支援

生活福祉資金特例貸付における借受者のうち、生活困窮が継続し償還免除となった方、生活困窮者自立支援金の利用者及び償還が難しい生活環境にある方等、生活困窮の状況が継続している方々に対し、専門機関との連携のもと、訪問等により生活再建を図る支援を行いました。

4 想定される災害に備えた地域防災力の向上

令和6年1月1日に発生した、令和6年能登半島地震による被害のあった地域のうち、中能登町に災害ボランティアセンターの運営・支援を行うため、延べ4名の社協職員を派遣しました。

また、能登町社会福祉協議会の運営支援のためにも職員1名を派遣しました。

今後、想定される大規模災害に機動的な対応が図れ、関係機関と連携、協働による支援活動が展開できるよう、災害ボランティアセンター運営訓練を実施すると同時に、市民に対し災害ボランティアセンターの理解を深めるための講座を実施し、地域防災力の向上に努めました。

事業報告の内容

1 法人運営事業【263,453千円】

【サービス区分事業活動支出 258,276千円】

【サービス区分施設整備等支出 4,089千円】

【共同募金配分金 1,088千円】

(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

ア 三役会の開催 5回（6月8日、9月11日、10月2日、12月8日、3月5日）

イ 理事会の開催 5回（6月13日、6月30日、10月10日、12月21日、3月12日）

ウ 評議員会の開催 3回（6月29日、10月24日、3月25日）

エ 評議員選任・解任委員会の開催 3回（6月19日、10月10日、12月21日）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

ア 監事会の開催 2回（6月2日、9月29日）

イ 会計監査人（明神監査法人）による監査の実施

ウ 会計監査人による監査報告の実施

エ 会計監査人による監査計画の説明（12月19日）

(3) 会員の増強 令和5年度新規入会会員

ア 正会員 7（第6種7施設）

イ 協賛会員 0

	R5実績	R4実績
正会員数	499	499
協賛会員数	14	14

(4) 苦情解決の実施と推進

ア 苦情受付件数 0件

2 調査・研究事業【836千円】

【サービス区分事業活動支出 364千円】

【共同募金配分金 472千円】

(1) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

ア 第6期地域福祉活動計画推進委員会の開催（年4回）

（6月30日、8月3日、12月11日、3月12日）

イ 川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会・川崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会意見交換会 1回（8月3日）

ウ 地域福祉活動計画策定会議 31回

（5月30日、6月6日、6月8日、6月16日、6月21日、7月5日、7月11日、7月13日、7月18日、7月19日、8月1日、8月10日、8月15日、8月21日、9月1日、9月14日、9月20日、10月8日、10月12日、10月18日、11月1日、11月9日、11月15日、12月1日、12月14日、12月20日、1月5日、2月8日、2月21日、3月1日）

エ 区社協地域課における総合相談（ふくし相談）の統計化

相談件数7区合計 3,079件

オ 川崎市社会福祉協議会経営状況等確認ワーキング

「令和6年度 地区社協の活動を活性化するための民間等の主体との連携した取組を具体化していく仕組みづくり」に向けた事業づくりに向けた会議

12月7日、12月26日、2月9日、3月7日、3月26日
 カ 川崎市社協と日本電気株式会社とのパートナーシップ協定締結
 締結日及び調印式 7月3日

キ SDGs パートナーまつりへの参加

来場者（市民・事業者）のSDGsへの関心を高め、イベントの企画・出展等をSDGsゴール
 ドパートナーが行うことで、パートナー同士の繋がりや気運の醸成を図ることを目的とし
 た、NECプロボノ倶楽部主催のイベント

(ア) 実施日 10月28日、29日

(イ) 出展内容：XRゲームで交流しよう（神奈川工科大学と連携しての企画）

キットパスを使って手形アート、塗り絵

ク スマホDE健康講座の開催

(9月14日、12月13日)

ケ かわさき起業家オーディションへの協賛と参加

企業との繋がりづくりと組織PRを目的に、協賛とオーディションに参加

オーディション実施日：7月21日、9月15日、12月8日、3月8日

3 研修事業【828千円】

【サービス区分事業活動支出 31千円】

【共同募金配分金 797千円】

(1) 職員研修の実施

	R5実績	R4実績
研修数 (件)	14	10
受講人数 (延べ)	211 (動画視聴除く)	265

ア 新規採用職員研修 4回 (4月4日、6月2日、9月4日、12月4日)

イ 職員基礎研修 9回 (9月28日、12月5日、6日、7日、13日、14日、
12月15日、22日、1月12日、オンデマンド配信)

ウ 職位に応じた研修 1回 (2月27日)

(2) 各種研修への参加・職員資格取得補助

ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 延べ11名

イ 職員の資格取得の補助 延べ13名

4 企画・広報事業【10,929千円】

【サービス区分事業活動支出 1,928千円】

【共同募金配分金 9,001千円】

(1) 第59回川崎市社会福祉大会の開催

ア 実行委員会 3回 (7月10日、9月13日、10月31日)

イ 社会福祉大会 (10月31日) 参加者800名

(2) 広報紙「川崎の社会福祉」の発行

ア 広報紙「川崎の社会福祉」 年4回 (600号～603号)

各12,000部発行

(3) 広報企画検討委員会の開催

(5月10日、7月20日、10月10日、1月15日)

(4) ホームページの運用と管理

ア ホームページ

- (ア) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 (<https://www.csw-kawasaki.or.jp/>)
- (イ) 川崎市総合福祉センター (エポックなかはら) (<https://sfc-kawasaki.jp/>)
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ (<https://k-fukumimi.com/>)
- (エ) 総合研修センター (<https://www.kensyu-c.jp/>)
- (オ) 施設部会 (<https://csw-kawasaki.or.jp/shisetsu/>)

イ SNS (フェイスブック、Instagram、LINE、YouTube、X (旧Twitter) 等)

- (ア) 川崎市社会福祉協議会公式フェイスブック、Instagram、LINE、YouTube、X (旧 Twitter)
- (イ) 川崎市社会福祉協議会 (災害情報専用) フェイスブック、X (旧Twitter)
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック、YouTube
- (エ) ボランティア活動振興センター フェイスブック
- (オ) 総合研修センター フェイスブック、YouTube
- (カ) 福祉人材バンク フェイスブック、Instagram、YouTube
- (キ) 施設部会 フェイスブック、Instagram、YouTube、X (旧Twitter)
- (ク) 老人福祉センター (多摩・麻生) YouTube

5 区社協推進事業【1, 373千円】

【サービス区分事業活動支出 174千円】

【共同募金配分金 1, 199千円】

(1) 区社協事業との連携・協働

ア 川崎市社協・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換

イ 地域課長会議 12回

(4月13日、5月11日、6月8日、7月13日、8月10日、9月14日、10月12日、11月9日、12月14日、1月11日、2月8日、3月14日)

ウ 経理担当者会議 3回 (4月19日、7月26日、12月26日)

エ ふくし相談担当者会議 1回 (7月21日)

オ 民生委員児童委員協議会担当者会議 1回 (5月1日)

カ 区社協地域課職員研修 11回

(4月12日、4月26日、5月19日、5月31日、7月6日、7月7日、10月24日、10月30日、12月19日、1月10日、1月26日)

(2) 地区・区社協役員等の研修会の開催 (地域部会事業)

ア 地域部会トップセミナー 1回 (11月27日)

イ 地区社協役員等研修会 1回 (2月16日)

6 助成事業 【24, 615千円】

【サービス区分事業活動支出 24, 615千円】

(1) 社会を明るくする運動への協力

第73回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額350,000円

イ 二子老人いこいの家に助成 助成額350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

施設部会を開催し、施設部会及び各協議会の研修事業等に対し助成

- ア 施設部会 4回（5月31日、8月30日、12月26日、2月29日）
- イ 研修事業等に対し助成 362施設 計 1,934,000円

(4) ふれあい活動支援事業の推進

- ア 会食活動に助成 105団体 計 14,383,000円
- イ 配食活動に助成 4団体 計 704,000円
- ウ ミニデイサービス活動に助成 9団体 計 1,868,000円
- エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催（11月17日、1月16日）

(5) 法定外緊急援護事業資金の交付（生活困窮者緊急援護資金）

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額320,000円

(6) 令和5年度わくわく親子フェスタ

県社協「令和5年度わくわく親子フェスタ」に交付 20,000円

(7) 福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 19団体 計4,414,957円

(8) 障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 11団体 計840,000円

7 部会・委員会事業【7,924千円】

【サービス区分事業活動支出 6,418千円】

【共同募金配分金 1,506千円】

(1) 部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

- (ア) 部会議 2回（6月6日、3月6日）
- (イ) 正副部会長会議 3回（5月17日、8月31日、2月6日）
- (ウ) 地域共生社会実現に向けた地区社協活動運営推進会議 4回（5月17日、7月26日、9月19日、11月30日）
- (エ) 川崎市内地区社会福祉協議会概要集 発行 5,000部
- (オ) 地域部会トップセミナー【再掲】 ⇒5-(2)
- (カ) 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-(2)

イ 法人経営者部会

- (ア) 部会議 2回（4月26日、3月8日）
- (イ) 企画委員会議 2回（4月20日、2月15日）
- (ウ) 法人経営者部会と川崎市との意見交換会（3月8日）
- (エ) 研修会 1回（3月8日）
- (オ) 第64回大都市社会福祉施設協議会（広島大会）への参加（11月28日）
- (カ) 情報提供の実施

ウ 施設部会

- (ア) 部会議 4回（5月31日、8月30日、12月26日、2月29日）
- (イ) 研修会 3回（6月16日、9月8日、12月22日）
- (ウ) ふくしの出張講座 18件（25施設）
- (エ) 第64回大都市社会福祉施設協議会（広島市大会）への参加準備会 1回（5月22日）
- 運営協議会 2回（11月13日、3月15日）

第64回大都市社会福祉施設協議会（広島市大会） 1回（11月28日）

(オ) 川崎市や大学・高校、企業等との協働

※NECとのパートナーシップ協定を踏まえての内容は下記保育協議会に記載

(カ) その他（会員施設へ各種研修会や助成金、制度情報等をメール配信）

エ 保育協議会

(ア) 総会 1回（5月18日）

(イ) 代表者委員会 6回（4月12日、6月28日、8月8日、10月30日、12月18日、1月30日）

(ウ) 保育研修会 2回（5月18日、3月13日、通年動画配信25テーマ）

(エ) 第50回川崎市保育まつり（対面・YouTube配信）

対面 7回 参加園数 284園 参加者総数 4,758名（11月14日、11月21日、12月6日、1月16日、1月23日、1月25日、2月1日）

動画配信（再生回数） 336回 市内454園

各区打合せ 9回（10月5日、10月18日、10月23日、10月30日、12月20日、12月21日、12月25日、12月27日、12月28日）

NECとのパートナーシップ協定 会場提供等 1回（1月25日）

NECとのパートナーシップ協定 イベント協力 3回（10月28日、10月29日、11月12日）

(オ) 第41回川崎市保育研究大会 1回（11月15日、YouTube配信）

(カ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等

a 全国保育協議会協議員総会 2回（5月26日、2月17日）

b 全国保育組織正副会長会議 1回（11月15日）

c 第66回全国保育研究大会 1回（11月16日～11月17日）

d 関東ブロック保育協議会会長会 4回（4月27日、9月15日、11月7日、2月27日）

e 第63回関東ブロック保育研究大会 1回（7月26日～7月27日）

f 関東ブロック保育事業連絡協議会 1回（9月15日）

g 関東ブロック保育協議会「保育士の専門性を高める研修会」 1回（2月27日～2月29日）

(キ) その他（全保協ニュースや関係各種団体の研修会開催情報、制度情報等をメール配信）

オ 老人福祉施設協議会

(ア) 施設長会 6回（4月19日、6月21日、8月23日、10月18日、12月20日、2月21日）

(イ) 正副会長等会議 6回（4月6日、6月1日、8月3日、10月5日、12月7日、2月5日）

(ウ) 災害プロジェクト委員会 5回（5月9日、7月20日、9月5日、10月31日、1月15日）

災害に関する研修会 1回（3月19日）

物資移送訓練 1回（9月3日）

(エ) 人材プロジェクト委員会 6回（5月17日、7月19日、9月20日、11月30日、1月30日、3月26日）

正副委員長会議 1回（6月12日）

正副委員長・班長会議 2回（11月17日、1月31日）

福祉の仕事説明会 6回（5月19日、7月14日、9月15日、11月8日、1月19日、3月8日）

地元で活躍する企業との交流会 1回（11月20日）

ハローワーク打合せ 1回（4月11日）

アンケート班会議 4回（8月7日、11月17日、11月30日、1月31日）

動画班会議 3回（8月8日、11月17日、1月11日、3月13日）

(オ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等

a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 3回（4月3日、6月29日、

9月13日)

- b 第58回関東ブロック老人福祉施設研究総会 1回(9月13日～9月14日)
- c 都道府県指定都市老施協・デイ協会長会議 1回(11月10日)
- d 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回(6月14日、3月10日)
- e 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会 2回(5月29日、2月19日)
- f 神奈川県社協老人福祉施設協議会研修会 2回(6月14日、3月10日)
- g 第21回かながわ高齢者福祉研究大会 1回(7月5日)
実行委員会 3回(4月27日、6月15日、9月28日)
実行委員・係員・審査員合同説明会 1回(6月15日)
研究発表優秀賞表彰式 1回(9月28日)
- h かながわ高齢者福祉研究大会今後のあり方検討会
検討会 3回(10月19日、12月11日、2月9日)
- i 神奈川県社協老人福祉施設協議会課題別プロジェクト会議
施設運営対応プロジェクト会議 1回(12月18日)
人材確保等対応プロジェクト会議 1回(12月7日)
災害対応プロジェクト会議・研修会 2回(12月19日、2月26日)

カ 障害者福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 4回(5月9日、7月13日、9月28日、2月9日)
- (イ) 正副会長会議 5回(4月24日、7月13日、8月4日、9月28日、2月9日)
- (ウ) 障害福祉施設関係者等研修会 1回(3月19日)
- (エ) 福祉でつながる地元交流会
対面 7回 参加者345名(10月12日、10月19日、12月1日、
12月11日、12月14日、1月19日、2月2日)
各区打合せ 17回(7月5日、7月7日、7月10日、7月11日、7月19日、
7月21日、7月25日、9月21日、9月27日、10月6日、10月13日、
11月27日、12月5日、12月7日、12月20日、1月9日、1月29日)
連絡担当者会議 2回(6月5日、9月7日)
報告会 1回(3月22日)

キ 児童・母子福祉施設協議会

- (ア) 総会・施設長会 4回(5月12日、7月10日、10月4日、1月26日)
- (イ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会
対面 1回 参加者47名(7月31日)
- (ウ) 職員交流会
 - a 実行委員会 4回(9月21日、10月6日、11月7日、11月9日)
 - b 職員交流会
対面 3回 参加者240名(11月27日、12月4日、12月11日)
- (エ) 研究発表会
 - a 事前発表会 1回(2月13日)
 - b 研究発表会 1回(2月28日)
- (オ) 研修会
対面 1回 参加者105名(1月30日)
- (カ) オレンジリボン運動
 - a 実行委員会 5回(5月30日、6月13日、8月24日、10月4日、12月14日)
 - b ランナー・中継担当役員会議 4回(6月13日、8月24日、10月4日、
12月14日)
 - c 啓発担当役員会議 6回(6月20日、7月12日、8月24日、9月26日、
10月4日、12月7日)
 - d オレンジリボンたすきリレー 1回(10月22日)
 - e 啓発活動
 - ・オリジナルチラシ・ポスターの配布
 - ・オリジナルデザイン缶バッチの配布

- ・川崎市内スポーツチームを通じての広報
- ・ホームページ、SNSを活用した広報
- ・他機関と連携した広報啓発
- ・感謝状贈呈式

(キ) 勉強会 2回 (7月15日、1月8日)

ク 民生委員児童委員部会

- (ア) 部会議 2回 (5月26日、3月22日)
- (イ) 代表者会議 5回 (5月8日、8月7日、10月3日、12月4日、3月4日)
- (ウ) 研修会 民生委員児童委員部会研修会 1回 (1月31日)

ケ 保護司部会

- (ア) 部会議 1回 (5月25日)
- (イ) 代表者会議 3回 (4月20日、8月29日、3月12日)
- (ウ) 研修会
保護司部会研修会 (12月7日)
市原刑務所視察 (33名)

コ 障害者団体部会

- (ア) 団体部会 4回 (5月30日、8月1日、11月28日、3月1日)
- (イ) 正副部会長会議 4回 (5月22日、7月25日、11月28日、3月1日)
- (ウ) 障害者団体リーダー研修 2回 (10月11日、2月27日)

サ ボランティア団体部会

- (ア) 部会議 4回 (5月10日、7月24日、10月13日、2月28日)
- (イ) 研修会 (3月25日)「災害ボランティアセンターを知ろう、学ぼう」
(3月27日)こども食堂見学「むかいがわらこども食堂 じいーじいーず」
- (ウ) まちのひろばフェス出展 (12月2日)

(2) 各種委員会、種別会員会議の開催

ア 種別会員会議

- (ア) 第6種会員会議 (5月31日) 施設部会と併せて開催

(3) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

(4) 障害者の日キャンペーン事業

- ア 障害者週間街頭キャンペーン事前準備 11月28日
- イ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月29日
- ウ 障害者週間啓発用ポスター・パネル掲示
(ア) JR南武線主要5駅構内 11月30日～12月11日
(イ) 総合福祉センター内 12月3日～12月9日
- エ 障害者週間街頭キャンペーン 12月2日
川崎駅・武蔵溝の口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りオリジナルデザインティッシュを配布 3,600個

8 福祉基金運営事業【2,290千円】

【寄附・利息等収入 2,290千円】

(1) 福祉基金の運営

福祉基金運営委員会 2回 (11月15日、3月18日)

(2) 令和5年度福祉基金状況

- ア 寄付金額総額 700,000円 (2件)
(令和4年度 200,000円 (1件))

イ 年度末基金残高 333,862,481円
 (令和4年度 336,487,040円)

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(7)

9 資金貸付事業【2,796千円】

【サービス区分事業活動支出 2,796千円】

(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務(貸付は平成27年度に終了)

償還状況(臨時費4件 計2,518,900円 償還率100%)

(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

ア 経営改善相談 6件

イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし

ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし

エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年4回

オ 社会福祉法人会計実務担当者向け研修会の実施

3回(9月22日、12月1日、3月1日) 参加者延べ109名

10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)への協力

	R5	R4
一般募金全市実績額(円)	78,399,999	79,043,686
年末たすけあい募金全市実績額(円)	50,330,168	52,680,122

(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 69,714千円】

ア 法人運営事業 【1,088千円】

イ 調査研究事業 【472千円】

ウ 研修事業 【797千円】

エ 企画・広報事業 【9,001千円】

オ 区社協推進事業 【1,199千円】

カ 部会・委員会事業 【1,506千円】

キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働

【500千円】

ク 区社協活動費助成金事業 【53,325千円】

ケ 地域生活支援SOSかわさき事業 【337千円】

コ その他、地域福祉の推進のための事業 【1,489千円】

(ア) 子育て支援事業

(イ) 児童福祉施設訪問事業

(ウ) 高齢者福祉施設等訪問事業

(エ) 障害者団体等活動助成事業

1.1 受託事業【209,667千円】

(1) 福祉パル受託事業（各区1箇所 計7箇所）

【サービス区分事業活動支出 18,711千円】

ア 地域福祉活動の拠点施設である市内7区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託

(ア) 活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援

a 研修室 年間利用数 2,774件（全市）

b ボランティアコーナー 1,497件（全市）

(イ) 備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

(2) 福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 34,484千円】

ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R5実績	R4実績
就職件数（件）	21	16

(ア) 年間有効求人延べ数 8,279件

(イ) 年間有効就職延べ人数 800件

(ウ) 就職件数 21件

(エ) 福祉の仕事に関する相談件数 1,394件

イ 福祉のお仕事相談会の開催

・1回目（8月4日、8月5日） 横浜新都市ホール 43事業者参加

	R5実績	R4実績
来場者数（人）	約1,100	746

延べ面談数36件 就労数0名

・2回目（1月27日） 総合研修センター 38事業者参加

	R5実績	R4実績
来場者数（人）	27	65

延べ面談数65件 就労予定人数 調査中

・ミニ就職相談会（ハローワーク川崎、ハローワーク川崎北と共催）

（5月19日、7月14日、9月15日、11月8日、1月19日、3月8日）

ハローワーク川崎

	R5実績	R4実績
来場者数（人）	109	103

ハローワーク川崎北

	R5実績	R4実績
来場者数（人）	112	103

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R5実績	R4実績
各種研修会等の開催（回）	17	17
参加者数（延べ人数）	348	403

a 医療技術再確認研修

川崎市立川崎病院の認定看護師による医療研修 全4回 98名参加

（前年 全6回 159名参加）オンライン開催

- b 地域連携★総合交流学習会in川崎市立井田病院 会場開催
全3回 18名参加 ※新規
- c 福祉職のための出張講座（出張依頼ごと）全6回 92名参加（前年6回130名参加）
- d 採用担当者向けセミナー 2回 84名参加（前年2回71名）
- e 医療研修 2回 38名参加（前年2回43名）
- エ 福祉人材確保・定着事業
 - a 福祉施設見学バスツアー（学生向け）田園調布学園大学と共催
3月27日 14名参加（前年19名）
白山愛児園（児童養護施設）、田園調布学園大学みらいこども園
 - b 潜在労働層への働きかけ
 - ・幸区民祭
福祉体験を通し、福祉のお仕事紹介を実施
10/21（土）、22（日）疑似体験 参加 約87組（約150名）
（前年 約60組（150名）
チラシ・求人情報誌配布
 - c 定時制生徒自立支援プロジェクト
生徒個々の課題を改善、克服し自立にむけた就労のサポート体制の仕組みづくり
（高津高校・かわさき若者サポートステーション・人材バンク）
- オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携
 - (ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア
（就職相談会・就職ガイダンス）3回（6月、10月、2月）
 - (イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 2回
 - (ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携
求職者向け福祉の仕事説明会 全6回
 - (エ) 川崎市こども未来局との連携
養成校における保育のお仕事相談及び広報啓発 1回 64名参加
 - (オ) 学校連携及び学内就職ガイダンスへの協力
学内就職ガイダンス等への協力 2回 1,516名参加
- カ こころの健康相談室『ふおーえむ』の実施及びメンタルヘルス研修の開催
 - (ア) メンタルヘルス相談（月2回～3回 不定期 月・金曜日）延べ48件（前年度26件）
 - (イ) メンタルヘルス研修会 2回3日 延べ22名参加（前年度29名）
 - (ウ) 広報紙「ふおーえむのご案内」の発行 2回
- キ 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回（7月19日、2月15日）
※オンライン又は会場参加
- ク 広報
 - (ア) 求人情報紙の発行 毎月1回発行
 - (イ) 人材バンク ホームページ <https://kawasaki-jinzaibank.jp/>
 - (ウ) LINEニュース 認知度調査（神奈川新聞）5月11日～17日
アクセス数19,423件アンケート回答数151件
 - (エ) Instagram 毎週木曜午後配信 6月22日より開始
市内事業所紹介順次掲載
3月末フォロワー数214人
 - (オ) 福祉事業所等の現場職員による魅力発信動画制作（高齢・障害・保育）
<https://kawasaki-jinzaibank.jp/about-movie/>
 - (カ) 行政のサイネージ、アゼリア等の広告媒体用のショート動画作成（6月）
※高齢者事業推進課 配信手続き中
施設職員の1日密着動画を制作
ひらま（障害）、生田広場（高齢）
 - (キ) 高校生向け新聞
エイチピー 記事掲載 7月配布 新緑の郷 高校生記者取材
県内の高校（県立、市立、私立、特別支援学校）、一部中学校）

配布生徒数：約20万人 学校数260校

- (ク) メールによる情報提供、利用案内等の発信（求職登録者・求人事業者向け送信）
- (ケ) 人材バンクリーフレットの配布
- (コ) 介護冊子配布
- (サ) 川崎市社協広報誌「川崎の社会福祉」
- (シ) 川崎市広報協力依頼
川崎市地域ポータルサイト、川崎市公式ツイッター、各区役所サイネージ、アゼリアヴィジョン

(3) 生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 117,555千円】

- ア 貸付決定件数 153件
- イ 生活福祉資金貸付事業担当者会議 3回（6月7日、11月14日、11月29日）
- ウ 特例貸付フォローアップ支援の相談件数 2,834件（延べ）
 - (ア) 電話相談 1,694件
 - (イ) メール・FAXなど 678件
 - (ウ) 窓口来所での対応 185件
 - (エ) 社協職員の自宅訪問 277件
 - (オ) その他（公式LINE・広報強化、チラシ作成・相談管理システム構築）
- エ 関係機関・団体との会議の実施や情報交換・連携した対応の実施
だいJOBセンター、法テラス、ハローワーク、国際交流センター、フードバンクかわさき等の関係機関と連携するための会議の実施や連携した対応を実施しました。
- オ 「特例貸付から見える生活困窮のリアル」出前講座 3回、234名参加
（6月23日、8月8日、8月28日）
- カ 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

(4) 福祉サービス受託事業

【サービス区分事業活動支出 29,188千円】

- ア 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の実施及び総合的管理運営
年間派遣利用者数 29名
派遣時間（年延べ数）232時間
- イ 高齢者外出支援サービス事業の管理運営
登録者数 421名（令和6年3月現在）
利用件数（年延べ数）1,945件

(5) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業

【サービス区分事業活動支出 9,729千円】

川崎区で実施 ⇒川崎区社協該当項目掲載

12 ボランティア活動振興センター事業【11,295千円】

【サービス区分事業活動支出 11,295千円】

(1) 運営委員会の開催

- ア 運営委員会 2回（9月29日、1月26日）

(2) 相談・情報提供事業及び調査・研究

- ア ボランティアコーディネーター業務
 - (ア) ボランティア募集の依頼 49件（令和4年度 64件）
 - (イ) ボランティア活動希望への相談・情報提供 59件（令和4年度 84件）

- (ウ) ボランティアによる支援 0件 (令和4年度 3件)
- イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供
 - (ア) ボランティア体験紹介冊子「ボラ・ナビ2024」の発行 1,500部
(公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行)
- ウ ボランティア担当者会議の開催 6回
- エ 電話相談実務者研修(3月12日)開催 参加者32名

(3) 広報・啓発

- ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供
 - (ア) ホームページの管理、およびウェブアクセシビリティに配慮したホームページのリニューアルを実施
 - a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ若い世代の巻き込み方、新しい活動者の獲得事例、SNSの活用
 - b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
 - (イ) ボランティア関連情報冊子の発行
 - a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 85団体
 - b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 3,000部
- イ ボランティア交流室の貸出 509件

(4) ボランティア育成支援

- ア ボランティアコーディネーター研修の開催
 - (ア) 「災害ボランティアセンターマッチング体験～被災者支援のあり方を考える～」
(9月7日) 参加者34名
 - (イ) 「若い世代の巻き込み方、新しい活動者の獲得事例、SNSの活用」
(2月7日) 参加者8名
- イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催
 - (ア) 「基礎から学ぶ NPOのための資金調達」
(2月10日) 参加者16名
 - (イ) 「どうする? 団体活動の継続と世代交代」
(3月16日) 参加者14名

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育推進会議の開催 4回(5月26日、7月14日、11月10日、3月8日)
- イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)(8月16日)
参加者 20名
- ウ 川崎市内郵便局長研修の実施(川崎市、日本郵便局川崎地区連絡会、川崎市社協の共催)
(2月5日、2月6日) 参加者 40名
- エ 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2023」の開催
7月22日～8月19日 参加者270名

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

- ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練(担当区社協との共催)及び職員及び関係機関向け研修会の開催

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関(中間支援組織)との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加
関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。

13 あんしんセンター事業【144,064千円】

【サービス区分事業活動支出 143,821千円】

【サービス区分施設整備等支出 243千円】

(1) 権利擁護にかかわる相談(日常生活自立支援事業及び川崎市成年後見支援センター事業)

相談件数 9,915件(初回相談 1,151件、継続相談 8,764件)

(※令和4年度相談件数 9,514件/初回相談件1,306件、継続相談8,208件)

(2) 日常生活自立支援事業

ア 相談件数

相談件数 7,956件(初回相談 290件、継続相談 7,666件)

イ サービス契約者数(令和5年度末の継続利用者数)

	R5実績	R4実績
書類預かりサービス利用者数(人)	32	36
金銭管理サービス利用者数(人)	143	135

(3) 契約能力判定審査会の運営

ア ケース検討会議の開催 19回

(ア) 新規利用申込件数 合計 44件

(イ) 継続利用者の処遇 合計 3件

イ 契約能力判定審査会の開催 6回(5月18日、7月13日、9月14日、11月9日、1月18日、3月14日)

(ア) 諮問件数 合計 5件

(イ) 報告件数 合計 63件

(4) 業務監督審査会の運営

ア 業務監督審査会の開催 6回(5月18日、7月13日、9月14日、11月9日、1月18日、3月14日)

(ア) 諮問件数 合計 2件

(イ) 報告件数 合計 248件

(5) 専門員及び生活支援員等研修の実施

ア 生活支援員研修

(ア) 生活支援員研修2回(10月23・25日、2月26日、3月7日受講者延べ74名)

イ 専門員研修

(ア) 新任専門員研修・フォローアップ研修 3回(7月6日、6月13日・7月19日・10月13日、8月25日、受講者6名)

(イ) 専門員研修 3回(9月26・28日 12月22日、12月26・27日 受講者延べ41名)

(6) 成年後見事業(法人後見)

ア 法人後見新規受任件数 2件 (※令和4年度 0件)

イ 令和5年度末の法人後見受任継続件数 39件 (※令和4年度末 43件)

(7) 成年後見制度連絡会の開催

ア 成年後見制度連絡会の開催 2回 (6月22日、11月9日)

(8) 川崎市成年後見支援センターの運営

ア 広報事業

(ア) 市民向けリーフレット及び成年後見制度パンフレットの配布

(イ) 成年後見制度シンポジウムの開催 (2月17日) 参加者 41名

(ウ) 市民向け研修会 2回 (9月22日、3月6日) 受講者 延べ82名

(エ) 関係機関向け研修 2回 (7月10日、10月20日) 受講者 延べ87名

(オ) 成年後見制度に関する出張講座

45回派遣 延べ868名参加

イ 相談事業

(ア) 職員による相談件数 1,959件 (初回相談861件、継続相談1,098件)

(イ) 法律・福祉の専門職 (弁護士・司法書士・社会福祉士) による専門相談 53件

(ウ) 支援チームへの法律・福祉の専門職 (弁護士・司法書士・社会福祉士) 派遣 8件

(エ) 支援チーム等への申立支援 新規支援数 80件

ウ 成年後見制度利用促進事業

(ア) 申立書書き方講座 (7月10日) 受講者48名

(イ) 後見人候補者選定支援 「専門職後見人等のご案内」チラシの配布

(ウ) 市民後見人の養成と支援

a 市民後見人推進委員会 3回 (6月1日、10月5日、2月1日)

b 市民後見人受任調整会議 4回 (6月1日、7月28日、12月7日・21日)

c 市民後見人養成研修実践研修の実施 修了者12名 (うち12名が名簿登録)

d 市民後見人フォローアップ研修 2回 (8月2日、1月31日)

e 市民後見人への活動支援 適宜 (電話、メール、来所等による支援)

f 市民後見人受任状況 受任依頼5件、受任7件、終了4件

令和6年3月末現在13名受任中

エ 後見人支援事業

(ア) 親族後見人向け研修 2回 (6月27日・3月11日) 受講者7名

オ その他

(ア) 川崎市成年後見制度利用促進協議会 3回 (7月7日、9月11日、3月15日)

(9) 終活支援事業 (モデル事業)

ア 終活に関する普及啓発

(ア) 終活に関する相談対応

(イ) パンフレット・チラシの配布

(ウ) エンディングノートの配布

(エ) 終活に関するセミナー等の実施

a 全市を対象に終活に関するセミナー 2回

b 各区の老人福祉センターにおいてエンディングノート等終活に関するセミナー 7回

(オ) 事業説明・周知 19回

イ 契約に基づく死後事務等の個別支援

(ア) 契約件数 9件

(イ) 解約件数 2件

(ウ) 相談件数 104件

(エ) 訪問または面接件数 194件

ウ 終活事業に関する研修等への参加 1回

(10) その他

- ア 権利擁護事業の普及啓発
 - (ア) 川崎市あんしんセンターパンフレットの配布(随時)
 - (イ) 市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣
- イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査
かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査
 - (ア) 区実施状況調査 幸区 10月27日
 - (イ) 実施状況ヒアリング 2月2日
- ウ 区あんしんセンター事業実施調査
 - (ア) アンケート調査(12月～1月に実施)
 - (イ) 現地調査6区実施
- エ 日常生活自立支援事業実施における、区社会福祉協議会への支援
 - (ア) あんしんセンター連絡会議の実施 12回(4月17日、5月15日、6月19日、7月27日、8月21日、9月25日、10月18日、11月20日、12月18日、1月15日、2月20日、3月18日)
 - (イ) 相談に対する助言
- オ 日常生活自立支援事業実施主体連絡会 8月1日 1回 1名参加
- カ 法人後見実施社協連絡会(神奈川県内の法人後見実施社協と県社協の情報交換会)
7月11日、2月19日 2回 4名参加

14 地域生活支援SOSかわさき事業【722千円】

【サービス区分事業活動支出 385千円】

【共同募金配分金 337千円】

	R5実績	R4実績
参加法人	70法人	48法人
連携ネットワーク会議	4回	6回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

- ア 担当国会議の開催 1回
(幸区: 12月14日)
- イ ネットワーク会議の開催 4回
(中原区: 2月28日、高津区: 7月12日、宮前区: 5月11日、多摩区: 2月2日)
- ウ 相談対応

(2) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

市社協公式SNS、ホームページ等を通じ取組発信

(3) 食糧支援かわさきの実施

- ア 食糧支援かわさき実績(令和6年3月31日現在)
 - (ア) 食糧の提供(企業・施設・市民等) 約34,300品(令和2年度からの累計)
 - (イ) 食糧支援実績 約4,150世帯(令和2年度からの累計)
 - (ウ) 日用品の提供 約820品(令和2年度からの累計)
 - (エ) 日用品支援実績 約560品(令和2年度からの累計)
 - (オ) 食糧保管拠点 11カ所

(4) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 総合研修センター管理経営事業【87,563千円】

【サービス区分事業活動支出 87,563千円】

(1) 人材開発・養成研修事業

ア	(新規)新人・新任介護職員向け実践研修	修了者	18名		
イ	介護職員実務者研修(HAPPY&SMILEとの共催)	修了者	8名		
ウ	福祉職員向け現任研修	46研修	受講者延べ	989名	
エ	法人役員・管理者向けセミナー	58施設	65名(ハイブリット)		
オ	介護福祉士国家試験直前対策講座	1コース	受講者	10名	
カ	認知症介護に関する研修				
	基礎研修	5コース	修了者	230名	
	実践者研修	2コース	修了者	37名	
	実践リーダー研修	1コース	修了者	11名	
キ	重度訪問介護従業者養成研修	修了者	7名		
ク	強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	4コース	修了者	194名
		実践研修	1コース	修了者	50名
ケ	行動援護従業者養成研修	修了者	31名		
コ	医療的ケア児等支援者養成研修	修了者	32名		
サ	相談支援従事者に関する研修(初任者研修、現任研修)	7コース	修了者	326名	
シ	同行援護従業者養成研修	一般課程	4コース	修了者	47名
		応用研修	1コース	修了者	11名
ス	地域包括支援センター職員向け研修				
	新任職員研修	3研修、現任研修	3研修	受講者	262名
	予防給付ケアマネジメント従事者養成研修			受講者	57名
セ	介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修Ⅱ	2コース	修了者	143名	

(2) 介護普及啓発事業

福祉用具の展示及び講座の実施

- (ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 41品目
- (イ) (新規)福祉用具・介護用品に関する啓発事業 221名
福祉関係図書・DVD・福祉啓発教材・視聴覚機材貸出事業の実施
- (ウ) 図書及び資料等所有数及び貸出数
 - a 図書 1,637冊 貸出実績 311冊
 - b DVD 188本 貸出実績 21本
- (エ) 社会福祉関係視聴覚機材等所有数 19
- (オ) その他
ホームページリニューアル、ノベルティ作成など効果的な情報発信による啓発活動

16 居宅介護等事業【718,516千円】

【サービス区分事業活動支出 717,805千円】

【サービス区分施設整備等支出 711千円】

(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数	延べ	9,508人/年
サービス提供時間		76,307時間/年
	(令和4年度)	92,953時間/年)

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数	延べ	2,842人/年
サービス提供時間		27,558時間/年
	(令和4年度)	31,188時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ 12,897件/年
(令和4年度 12,469件/年)

(4) 自由契約事業（おたっしゅサポート）の実施

利用者数 延べ 1,268人/年
サービス提供時間 2,668時間/年
(令和4年度 2,803時間/年)

(5) 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の受託実施

利用者数 延べ 10人/年
サービス提供時間 85時間/年
(令和4年度 103時間/年)

(6) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内28館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(7) 各種研修の実施

ア サービス提供責任者研修 2回

イ 介護支援専門員研修 2回

ウ 介護支援部合同研修 2回

エ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）

オ かわさき暮らしサポーター養成研修 2回（6月14日、2月16日）

カ ホームヘルパー普及啓発活動 市内のホームヘルパーの確保を図るため、訪問介護支援事業所にて「ホームヘルパーのお仕事講座」を実施し、ホームヘルパーの魅力等を伝える啓発活動を行った。 3回

（なかはら：11月10日、かわさき：11月22日、さいわい：1月23日）

17 老人いこいの家管理経営事業【245,052千円】

【サービス区分事業活動支出 245,052千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。
(市内48箇所)

(1) 年間利用者数 393,431名

(2) 会議

ア 老人いこいの家調整担当者会議 2回（5月12日、2月27日）

18 老人福祉センター管理経営事業【274,102千円】

【サービス区分事業活動支出 273,803千円】

【サービス区分施設整備等支出 299千円】

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。(市内7箇所)

(1) 年間利用者数 179,852名

(2) 会議 26回

ア 所長会議 12回（4月27日、5月29日、6月29日、7月27日、8月31日、9月29日、10月26日、11月30日、12月21日、1月25日、2月22日、3月28日）

- イ 事務職会議 2回 (5月9日、3月29日)
- ウ 看護職員会議 2回 (6月14日、12月15日)
- エ 講座・行事担当者会議 2回 (7月4日、1月24日)
- オ 生活相談員会議 1回 (7月21日)
- カ 指定管理申請会議 7回 (8月8日、8月16日、8月22日、8月31日、9月6日、9月29日、10月10日)

19 公益事業

(1) 川崎市総合福祉センター事業【159,019千円】

【サービス区分事業活動支出 159,019千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

(ア) 第1・2・3会議室、和室の提供(ホール・大会議室は工事のため休所)

- a 年間利用件数 1,207件 (令和4年度 2,107件)
- b 利用人数 14,509名 (令和4年度 32,733名)

イ 地域福祉情報バンク事業

(ア) 総合相談事業 (ふくし相談・専門相談)

- a ふくし相談事業 401件 (令和4年度 493件)
- b 情報バンク 293件 (令和4年度 327件)
- c 専門相談 107件 (令和4年度 94件)
- d 総合相談支援システムの円滑な運用

(イ) 地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信 (かわさき福祉情報サイトふくみみ)

- a ボランティア・市民活動団体実態調査 456団体を対象に実施
- b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
- c 地域福祉情報バンク通信の発行 (季刊 各7,000部)
- d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
- e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出
- f ふくみみパンフレット配布 609部
- g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と窓口等配布

(ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用

- a 図書貸出 1578件 DVD貸出 139件
- b コピー機貸出 (一般利用可能) 48人
- c 車いす貸出 11件 (42台)
- d 高齢者疑似体験セット貸出 13件 (55セット)
- e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 5件 (19セット)
- f 視聴覚障害者体験セット貸出 7件 (27セット)
- g ボッチャボールセット 10件 (20セット)

	R5実績	R4実績
新規貸出登録者数 (人)	62	69
図書・DVD貸出件数 (件)	1,717	1,454

ウ 地域包括ケア推進を目的に、地域住民を対象とした研修事業

- (ア) 地域包括ケア推進研修 5テーマ9回実施 受講者延べ138名
- (イ) 地域課題研修 7テーマ9回実施 受講者延べ204名
- (ウ) 地域活動促進研修 6テーマ9回実施 受講者延べ147名 (動画受講274回)

	R5実績	R4実績
研修件数 (件)	27	26
受講者数 (人)	489	679

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業【412, 937千円】

【サービス区分事業活動支出 412, 937千円】

ア 販売実績 延べ125, 588件

年間延べ 交付枚数	年度	R5実績	R4実績
	窓口 枚数(枚)	バス事業者、郵便局	125,588

※区社協での販売は、令和5年3月31日にて終了

イ 事業者会議 1回(1月31日)

(3) 地域包括支援センター事業(大師中央・溝口・登戸)【123, 415千円】

【サービス区分事業活動支出 123, 415千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

- (ア) 大師中央 1, 796件
- (イ) 溝口 1, 643件
- (ウ) 登戸 2, 843件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

- (ア) 大師中央 122件
- (イ) 溝口 64件
- (ウ) 登戸 115件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

- (ア) 大師中央 圏域会議1回(7/12)
個別ケア会議4回(5/24、7/6、2/1、3/12)
- (イ) 溝口 圏域会議3回(7/28、2/16、2/29)
個別ケア会議3回(6/13、9/12、10/25)
- (ウ) 登戸 圏域会議2回(6/27、2/27)
個別ケア会議3回(9/27、10/12、10/26)

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

- (ア) 大師中央 2, 027件(外部委託分 686件含む)
- (イ) 溝口 2, 457件(外部委託分 953件含む)
- (ウ) 登戸 3, 261件(外部委託分1, 100件含む)

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

- (ア) 大師中央 639件
- (イ) 溝口 699件
- (ウ) 登戸 1, 242件

(4) 川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 71, 945千円】

ア 修学資金	貸付人数	47名	貸付決定額	49, 980, 000円
イ 入学準備金	貸付人数	32名	貸付決定額	6, 210, 000円
ウ 就職準備金	貸付人数	46名	貸付決定額	9, 200, 000円
エ 生活費加算	貸付人数	0名	貸付決定額	0円

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 24,163千円】

ア	入学準備金	貸付人数	8名	貸付決定額	3,620,000円
イ	就職準備金	貸付人数	4名	貸付決定額	800,000円
ウ	住宅支援資金	貸付人数	13名	貸付決定額	5,185,200円

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【500千円】

【共同募金配分金 500千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

ア	寄付額	0円
イ	支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費）	0円
ウ	令和5年度末残高	33,490,779円
	（令和4年度末残高	33,490,779円）

(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（80名×3日分以上）

(4) 災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

(5) 被災地支援

「関東ブロック都県・指定都市社会福祉協議会災害時相互支援に関する協定」に基づき、石川県内の災害ボランティアセンターへ職員派遣を行った。（令和6年度も継続して派遣）

- ア 派遣期間 2月4日～10日、2月16日～22日、3月11日～17日
- イ 派遣職員数 延べ4名

22 その他

(1) 児童福祉施設訪問事業の実施

- ア 児童福祉施設訪問 1回（8月16日）
 - (ア) 訪問施設3か所
 - ・新日本学園
 - ・川崎市中央療育センター
 - ・こども心理ケアセンター
- イ プレゼント贈呈
訪問施設以外（5か所）は直接配送

(2) 高齢者福祉施設等訪問事業の実施

ア 高齢者福祉施設等訪問 1回(9月18日)

(ア) 訪問施設3か所(南部・中部・北部より1か所)

- ・南さいわい
- ・いせうら
- ・ヴィラージュ川崎

(イ) 市内高齢者個人宅1か所(幸区)

イ 祝品贈呈

訪問施設以外(60か所)は川崎市の祝品とあわせて直接配送

(3) 常務理事と職員との意見交換会

ア 職員との意見交換会 1回(川崎区:8月23日、8月25日、8月30日 幸区:8月24日 中原区:8月18日 高津区:8月30日 宮前区:8月9日 多摩区:8月9日 8月23日 麻生区:8月31日)

イ 川崎市社協新人・若手職員フォローアップ懇談会 1回(9月4日)

ウ 今後の川崎市社協において必要な事業創出に向けた意見交換会 1回(1月24日)

(4) 情報共有の場

第5期地域福祉活動推進計画(具体的取組⑦)の社協における相談機能強化の取組に基づき、市社協・区社協における各事業の方針や方向性の共通理解と、事業に関わる意識の共有を図ると同時に、組織が抱える課題の発掘、解決に向けた検討の場として設置

5回(4月5日、6月9日、8月4日、9月27日、1月23日)

(5) 新たな寄付形態の導入

自主財源確保に向けた一つの手法として、川崎市社協オリジナルキャラクターななふくのLINEスタンプ第二弾(川崎市総合科学高等学校デザイン科による制作)を販売開始。

川崎市川崎区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

重点事業

1 地区社協活動の支援・援助

地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。地区社協が主体となり、地域福祉懇談会、テーマ別の研修会、見守り活動、認知症予防を目的としたサロンなど、地区ごとに独自性のある事業が展開されました。

2 総合相談支援事業

生活相談等、年間を通じて1, 428件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等の支援を行いました。

3 災害支援の取組み

川崎区総合防災訓練（2月4日）に参加し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行うとともに、運営方法を確認しました。災害時のボランティア活動に関するパネルの展示、チラシ・啓発グッズの配布を通じて、災害ボランティアセンターの働きについて広く周知するとともに災害時のボランティア活動についての理解を深めていただきました。

事業報告の内容

川崎市社会福祉協議会 事業費【92,275千円】

【サービス区分事業活動支出	81,141千円】
【サービス区分施設整備等支出	178千円】
【共同募金配分金	10,956千円】

1 川崎市社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 4回（5月22日、6月1日、9月22日、2月26日）
- イ 運営協議会の開催 2回（5月25日、2月26日）

(2) 令和5年度会員及び賛助会員数

	R5実績	R4実績
会員数	150	154
賛助会員数	3,319	2,618

(3) 種別会議

本年度は、会議開催無し

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 1,199,430円

2 調査・研究事業

(1) 第5期地域福祉活動計画の進行・管理

川崎市社会福祉協議会との合併により第6期地域福祉活動計画策定は川崎市社会福祉協議会の計画の中に各区の重点取組・特色ある事業の紹介のページとして組み込まれることとなりました。第6期地域福祉活動計画策定にあたり第5期の振り返りをし、常任委員会にて報告しました。

(2) 福祉ニーズ調査・検討

- ア 要支援家庭見守り体制強化事業におけるヒヤリングの実施
- イ 総合相談事業におけるニーズ検討
- ウ いこいの家における満足度調査の実施

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

- ア 2月9日 常任委員会委員・運営協議会委員参加者 39名（講演会参加者50名）

(2) 関係機関が開催する研修会への参加

4 企画・広報事業

(1) 令和5年度 福祉まつり・川崎区社会福祉大会の開催

11月18日 参加者延べ800名

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

ア 広報紙「ウェーブ」年3回 115号(43,000部)、116号(43,000部)、117号(41,000部)発行

イ リーフレット 1,500部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

川崎区社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

ア 相談対応 4件

(2) 保育物品の貸出

ア 保育物品の貸出 169件

(3) 地域福祉関連の情報提供・支援

ア ホームページの運用

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

ア キャビネットの貸出し 15団体

(5) 車いすの貸出

ア 区民への車いす無料貸出 449件

(6) 福祉用具の再利用

ア 譲ります 10件、譲ってください 4件、成約 2件

(7) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
相談件数 1,428件

(8) 要支援家庭見守り体制強化事業

行政の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、十分

に食事のとれているかが不安な家庭等の子どもに食糧支援を行いました。また、地域で行われているフードパントリーや子ども食堂等の活動に協力しました。

支援世帯数 208世帯

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

ア 区内地区社協への助成 計9,811,800円

(2) 社会を明るくする運動への助成

ア 2件 20,000円

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア 会食活動に助成 33団体 計5,053,000円 (区社協助成分含む)
イ 配食活動に助成 2団体 計 424,000円 (区社協助成分含む)
ウ ミニデイサービス活動に助成 3団体 計 714,000円 (区社協助成分含む)
エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会(研修会)の開催
2回(11月17日、1月16日)

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会相互の情報交換・連絡調整の支援

(2) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

ア 地区社協会長連絡会 3回(5月25日、7月12日、3月15日)

(3) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

ア 年末支援金配布 402世帯 計2,010,000円

(2) 障がい者福祉啓発事業

ア 各種事業での啓発活動の実施

(3) 子育て支援事業

ア 子育てグループに助成金配布 11団体 計264,000円

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

ア ボランティア・当事者団体へ助成金配布 27団体 計1,889,240円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

ア 研修室 367件、ボランティアコーナー 134件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

ア 印刷機 110件、コピー機 62件

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付決定件数 62件

11 ボランティア活動振興事業

(1) 川崎区ボランティアセンター運営委員会の開催

ア 運営委員会 4回（6月8日、8月30日、11月7日、2月1日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 32件

イ ボランティア募集の依頼 15件

(3) ボランティア情報誌「いっぽ」の発行等、広報活動の実施

ア 広報紙「ウェブ」第116号に特別号として掲載

(4) 各種講座・セミナーの開催

ア 令和5年度夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2023」の開催（7月22日～8月19日）

イ ボランティア講座「ボランティア講座～はじめのいっぽ ボランティアを始めてみませんか～」の開催（1月25日）

ウ 災害ボランティア講座（2月9日）

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 31件

(6) ボランティア・市民活動団体・関係機関との連携

1 2 川崎区あんしんセンター事業

区内に在住する認知症高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者等が、地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、関係機関と連携を図りながら日常生活自立支援事業を実施しました。また、令和3年7月に開設された川崎市成年後見支援センターの相談窓口として、成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行うとともに、地域への広報活動を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

ア 相談件数 2,604件（初回相談44件、継続相談2,560件）
（※令和4年度相談件数 2,373件／初回相談48件、継続相談2,325件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

ア 相談件数 338件（初回相談77件、継続相談261件）
（※令和4年度相談件数 384件／初回相談140件、継続相談244件）

1 3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

ア 開催数 11回 利用人数 324人

(2) 夜間・休日等施設開放事業

ア 開催数 13回 利用人数 381人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

ア 利用人数 計74,898人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 9回
イ 運営委員長会議 1回（2月26日）

1 4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

※令和5年3月31日を以って区社協窓口での販売業務終了。

1 5 災害活動関連事業

(1) 川崎区総合防災訓練への参加

ア 2月4日 川崎区総合防災訓練にて普及啓発活動

(2) 災害発生時に必要な物品等の整備

(3) 災害時に必要なボランティアの基本的知識・技術を学ぶ講座の開催

16 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

ア 募金実績 22,920,506円 達成率 76.4%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局として、研修会や各種会議の開催、広報啓発運動等に協力

17 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

老人福祉センターとの連携など川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力しました。

川崎市幸区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 第5期幸区地域福祉活動計画に沿った事業の実施

令和3年度から3年間の計画期間の最終年度の取り組みとなりました。新型コロナウイルス感染症が5類となり、中止していた事業も、以前のように行うことができました。

2 住民交流活動拠点の円滑な運営

区内3か所で展開している「陽だまり」の運営を行いました。安定した運営を続けるために、新たな事業の委託を受け、さらに多くの人に利用してもえるよう、関係機関と連携した取り組みを進めました。

3 福祉教育への取り組み強化

学校の総合的な学習の時間に講師として参加したほか、講師派遣の調整をしました。地区社協、地区民児協をはじめとした地域の方や地域包括支援センター等と一緒に学校に出向き、地域活動の紹介も行いました。

疑似体験グッズの貸し出しや団体の紹介等を通して福祉の理解につながるよう努めました。

4 総合相談事業の実施体制の整備

老人いこいの家や、陽だまり等の地域拠点も含め、住民から寄せられる様々な相談をしっかりと受け止め、関係機関等と連携し解決につなげられるように努めました。

地域の大学生を対象とした食料支援は、地域の協力のもと継続して実施し、大学との連携も深まりました。

5 安定財源確保と啓発強化

広報紙による寄附の呼びかけを行いました。あわせて、寄附の使い道が分かるように工夫し広報しました。社会福祉大会や、プラザ祭りの開催時には、区社協・地区社協の活動を紹介する展示や、広報を行い啓発に努めました。

また、職員が地域に出るときには、共同募金会の名前の入った上着を着用することで、広報につなげました。

事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【83,908千円】

【サービス区分事業活動支出 68,259千円】

【共同募金配分金 15,649千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 4回（5月25日、6月1日、9月6日、2月28日）
- イ 運営協議会の開催 1回（3月11日）

(2) 各種委員会の開催

- ア 機関紙編集委員会 4回（6月19日、9月15日、12月11日、3月8日）
- イ 機関紙編集小委員会 4回（4月19日、7月19日、10月24日、1月22日）
- ウ ボランティア運営委員会 2回（6月15日、3月15日）
- エ 年末慰問金配分委員会 2回（6月16日、12月11日）

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ寄附金 延21件 1,263,691円／寄附品 延2件)

(4) 会員の増強、賛助会員・協賛会員の募集

令和5年度会員

	R5実績	R4実績
正会員数	108	109
賛助会員数	4,519	4,636

(5) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

社会福祉士相談援助実習 1名

2 調査・研究事業

(1) 「第5期地域福祉活動計画」に沿った取り組みの実施

第5期地域福祉計画に基づき事業を実施した。

(2) 次期地域福祉活動計画策定に向けた市社協・区社協間での調整

(3) 安定した事業運営のための財源確保及び組織体制の検討

令和4年度に検討した積算方法に基づき助成金等の配分を行った。

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

地区社協役員等を対象とした研修会の開催 1回（12月5日）

4 企画・広報事業

(1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催

区内で社会福祉に功労のあった方へ表彰状・感謝状の贈呈（9月26日）

(2) 広報紙「幸区の社会福祉」の発行

機関紙「幸区の社会福祉」 年4回、各55,000部発行
回覧または全戸配付

(3) 「幸区社協通信」の発行

情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行

(4) 区社協ホームページでの情報提供の充実強化

ホームページでの情報発信

幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社協との連携

地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。

(2) 子育て支援事業や会食会等への支援

地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。

(3) 地区社協連絡会議の開催

地区社協会長連絡会 1回（6月16日）

(4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営

小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。

また、学習支援を行う拠点（アイリス）の試行を開始。

(5) シニア向けいきがづくり・介護予防事業の実施

河原町の陽だまりにおいて、委託を受け事業を実施。健康講座12回、終活講座12回、スマホ・PC相談会36回、スマホの使い方講座11回、居場所づくり事業13回

(6) 総合相談（ふくし相談）事業の体制整備

福祉パルのほか、老人いこいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。

- ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
相談件数 390件

(7) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握

年間総相談件数 904件

(8) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 201件
学校への貸出 6件

(9) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

- ア 小学校への貸し出し 8件
イ その他地域団体への貸し出し 6件

(10) 福祉用具のリサイクル

- ア 譲りたい要望 0件
イ 譲ってほしい要望 1件
ウ 譲渡成立件数 0件

(11) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し、メンタルヘルス講座を2度開催

(12) 区内障害者施設関係者との情報交換の実施

川崎市幸区社会福祉大会、プラザ祭りの活動紹介についての打合せ及び情報交換を実施

(13) 子育て支援に関する啓発事業

- ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供に協力
イ 幸区子ども総合支援ネットワーク会議に参画し子ども情報ネットさいわいの編集、発行に協力（49号、50号、51号を発行）

(14) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

- ア 部会出席 3回（7月4日、8月7日、10月17日、1月16日）
イ みんなで子育てフェアさいわい
12月3日 幸区社会福祉協議会の展示ブースを設けた

(15) プラザ祭りの開催

さいわい健康福祉プラザにおいて、老人福祉センター、子ども文化センターと協働でプラ

ザ祭りを実施。共催団体の作品や活動を紹介する展示や、工作や体験ができるコーナー等を設置し開催した。(10月21日・22日)

(16) 区内の生活困窮者支援の一環として食料や日用品の配布を実施

食料支援かわさきの拠点として 28件対応

学生向けの食料支援を実施(窓口での対応 16件)

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計5,436,000円

(2) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

会食活動に助成 20団体 計 2,394,586円

ミニデイサービス活動に助成 2団体 計 349,700円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計160,000円

(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動 50,000円

幸区民祭協賛 50,000円

幸区ポッチャ大会への協賛 50,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)に協力

(2) 共同募金配分金を財源とした事業の実施

年末慰問金配布 324世帯・計1,620,000円

年末慰問品配布(お茶) 2,805世帯・計1,757,052円

会食・配食・ミニデイ実施団体助成 23団体 計460,000円

子育て支援事業実施団体助成 7団体 計350,000円

当事者団体活動助成 1団体 50,000円

ボランティアグループ活動助成 10団体 計369,000円

8 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室339件、ボランティアコーナー 132件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

区内貸付決定件数 8件

10 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンターの運営

(2) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回（6月15日、3月15日）

(3) ボランティア等に関する相談と調整、情報収集と提供

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 16件（令和4年度 33件）

イ ボランティア募集の依頼 33件（令和4年度 13件）

ウ ボランティアによる支援 8件（令和4年度 8件）

(4) 人材の育成、講座の開催

ア ボランティア講座の開催 2回（1月17日、2月21日） 参加者 75名

(5) ボランティア情報の発信

(6) 交流会の実施

ア ボランティア交流会（3月15日）参加者57名

(7) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 8件(小学校 8件)

イ チャレボラ2023 全11プログラム実施、30名参加

(8) ボランティア保険の受付

令和5年度保険加入件数 102件

1.1 幸区あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 606件（初回相談44件、継続相談562件）

（※令和4年度相談件数 732件/初回相談51件、継続相談681件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 226件（初回相談75件、継続相談151件）

（※令和4年度相談件数 295件/初回相談98件、継続相談197件）

1.2 老人いこいの家運営等事業

年間利用者数 52,885名

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内した。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの見直し。避難訓練の実施。各施設年2回。

教養講座 16講座 年343回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 289回

老人いこいの家まつりの開催 各館でいこいの家まつりを実施。

多世代・地域交流事業の実施 老人いこいの家の教養講座にこども文化センターやわくわくプラザ、小学生が参加する交流会を実施。いこいの家まつりでは、こども文化センターの子どもたちが舞台発表や、まつりのスタッフとして参加したほか、囲碁や踊りを一緒に行うことで交流した。

また、こども文化センターとボッチャやランチなどを一緒に楽しむ日を設けたほか、近隣保育園の園児とハロウィンのプレゼント交換を行い利用者と交流した。

老人いこいの家運営委員会の開催 14回（6月13日、6月26日、6月27日、6月28日、6月29日、6月30日、8月1日、8月3日、8月8日、9月12日、9月15日、9月28日、10月10日、11月17日）

1.3 災害活動関連事業

(1) 災害時におけるボランティアセンターの役割について検討

(2) 幸区総合防災訓練への参加 2回（9月10日、2月10日）

1 4 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会幸区支会への協力

- ア 募金実績 一般募金 12,619,784円 達成率 79.1%
年末たすけあい募金 8,753,427円 達成率 81.1%
- イ 区支会委員会の実施 3回 (5月24日、6月16日、1月25日)

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。
市社協 (施設事業推進課) と協働で福祉でつながる地元交流会を実施した。

1 5 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会の事業に協力

「老人福祉 (・地域交流) センター」の指定管理運営事業について、市社協と区社協が協働、連携して適正な管理運営を実施。

年間利用者数 31,467名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施
生活相談 随時対応 (看護師による健康相談・血圧測定実施)

講座 20講座実施

行事 踊ろう会、手仕事の会、スマホ・タブレットなんでも相談会、座ってバレエ、菖蒲湯、春の散策「春の散策 in神奈川県立歴史博物館」、園芸「緑のカーテン大作戦」、健康講座「免疫力UP腸活のすすめ」、七夕飾り、コグニサイズ、手芸を体験しよう、「落語」で学ぶ悪質商法、敬老のつどい、プラザまつり、幸区ボッチャ大会、「クリスマスリースを作ろう」、内科嘱託医による「血圧のおはなし」、秋の散策「秋バラと紅葉見学・とげぬき地蔵に行こう」、柚子湯、包括支援センター職員合同「このまちで自分らしく暮らすために」、健康講座「心と体に栄養を」、終活セミナー「エンディングノートの書き方」、節分豆まき、幸ハッピーフェスティバル (幸こども文化センター行事に参加)

機能回復訓練 24回/年 柔道整復師が担当

川崎市中原区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動の推進

地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援した。

地域福祉活動拠点（地域における交流促進の場や地区社協等の小地域福祉活動団体の活動場所としての拠点）を新たに地域の中に確保していくことの検討や設置については、新型コロナウイルス感染症の影響が残り地域活動の再開を慎重にさせる状況などもあったため具体的には進まなかった。

地域福祉ケアシステムの構築に向けた行政、関係機関との連携については、行政の主催事業への協力や関係会議への出席などにより連携を図った。

2 ボランティア活動の推進

ボランティアセンター運営委員会を開催して、福祉分野のボランティア活動の振興に取り組んだ。市民のボランティア活動やボランティア団体の育成を支援するため、ボランティア相談による対応をはじめ、ボランティア養成のための養成講座の開催や団体への活動助成などを行った。

広報活動については、ボランティア情報紙「ポポラーレ」を発行し、ホームページやSNSのLINEなども活用するなどして、ボランティアセンター事業の周知やボランティア活動の促進につながる有益な情報の発信に努め、ボランティア活動の推進に取り組んだ。

3 広報啓発活動、組織体制の強化

常任委員会や運営協議会、地区社協会長会議、各委員会を開催し、適切な組織運営を行い、ネットワークの強化に努めました。

また、第4期地域福祉活動計画（令和3年度～5年度）に基づき、『「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなでつくる」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉』を実現するため、住民の地域福祉活動への参加が促進されるように事業の推進に努めるとともに、次期地域福祉活動計画（令和6年度～8年度）を市社協と7区社協が一体的に策定を進めた。

広報啓発活動については、広報紙「社協なかはら」やボランティア情報紙などを発行し、社協事業をはじめ地域の福祉情報やボランティア情報を広く住民に周知するための情報提供や福祉の啓発に取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により見送っていた「なかはら福祉健康まつり」や各老人いこいの家における「いこいの家まつり」などを再開するなどして、地域の人々の交流やつながり作りの促進に取り組んだ。

4 災害時の対応に向けての取り組みと連携強化

災害発生時に災害ボランティア活動を円滑に推進できるように、災害ボランティアの養成講座を開催するとともに、中原区総合防災訓練に参加して市民への災害ボランティアセンターの周知を図り、中原区防災連絡協議会や中原区二次避難所施設連絡会議などに参加して情報・意見交換を行い連携に努めた。

事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【76,127千円】

【サービス区分事業活動支出 62,039千円】

【共同募金配分金 14,088千円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（6月、9月、2月）
- イ 運営協議会の開催 2回（6月、2月）
- ウ 地区社協会長会議の開催 1回（6月）
- エ 地区社協会長・区民児協正副会長合同会議 1回（9月）

(2) 令和5年度会員及び賛助会員数

	R5実績	R4実績
会員数	119	121
賛助会員数	1,550	1,619

(3) 種別会議

区社協役員の改選期でないため開催していない。

(4) 寄付金品の受け入れ

16件 合計1,103,660円

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の円滑な推進、次期地域福祉活動計画の策定

計画に基づいて各事業の推進に努めるとともに、次期地域福祉活動計画（令和6年度～8年度）を市社協と7区社協で一体的に策定を進めた。

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

令和5年度市社協地域部会地区社協役員等研修会に参加

4 企画・広報事業

(1) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 福祉を中心とした各種相談への対応

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて関係機関・団体と連携して支援に努めた。
地域課で対応した総合相談（ふくし相談） 相談件数 341件

(2) 広報啓発活動

ア 機関紙「社協なかはら」の発行

129号(80,000部)、130号(80,000部)

131号(74,000部)、132号(74,000部)

イ ホームページの管理運営

中原区社会福祉協議会ホームページ(www.nakaharaku-shakyo.jp)

ウ なかはら福祉健康まっりの開催

中原区役所庁舎を会場に区内福祉関係団体等が参加して実行委員会形式で「第27回なかはら福祉健康まつり」を令和5年11月19日に開催 来場者数は約1,500人

エ 中原区民祭への参加

令和5年10月15日 等々力緑地催し物広場で開催

オ 広報啓発物の作製 中原区役所ガイドマップへの広告掲載

カ 福祉関係図書・ビデオの貸出し及び閲覧 通年

キ 会員向け情報紙「なかはらタイムズ」の発行 毎月160部

ク 中原区社協新春のつどいの開催

令和6年2月9日 宝珍樓向河原店 参加者数69人

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社協活動への支援

事務的な支援や情報提供、助成金等により支援を行った。

(2) 小地域福祉活動の推進

情報提供や助成金等により支援を行った。

(3) 子育て支援の推進

就園前の子を持つ親を対象にした「布おもちゃづくり教室」を開催した。

(4) 福祉教育の推進

ア 学校、企業、地域における福祉教育の推進

イ 福祉教育に関する相談への対応及び連絡調整、講師等の調整や派遣、機器・機材等の貸出し

相談校・団体数 21件(小学校10校、中学校1校、その他10団体)

対応件数 41件(相談1件について複数対応あり)

高齢者疑似体験グッズ等の貸出し 19件

(5) 福祉当事者団体への支援

情報提供や活動費助成などにより支援した。

(6) 地域包括ケアシステム構築に向けた連携と地域支援

構築に向けて中原区役所や地区社協等との連携に努めた。

(7) 印刷機等の機器・機材の貸出し

- ア 福祉活動を目的とする印刷等のために貸出しを行った。 通年
- イ 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し 18団体

(8) 障害者（児）リフレッシュ事業の実施

区内在住の障害者（児）及びその家族を生きがいづくりや自立支援を目的にプロバスケットボールの試合観戦に招待した。

(9) 車いすの貸出し

区民への車いす無料貸出 250件

(10) 福祉用具リサイクル情報の提供

- ア 譲りたい要望 20件
- イ 譲ってほしい要望 7件
- ウ 譲渡成立件数 15件

(11) 中原老人福祉センターとの連携・協力

事業の広報周知などで連携・協力した。

6 団体等助成事業

(1) 地区社協育成交付金【共募】 5地区社協 計 549,037円

(2) 地区社協活動費の助成【共募】 5地区社協 計 4,209,113円

(3) 地区社協地域福祉活動費の助成【賛助会費】 5地区社協 計 2,801,750円

(4) 高齢者ふれあい活動支援事業補助金の交付

会食活動に助成 10団体 計 1,381,000円

(5) 区社協会員のボランティア・当事者団体等への助成【共募】

区社協第9種・10種会員 12団体 計 420,000円

(6) 協賛事業への助成【共募】

- ア 中原区社会を明るくする運動 50,000円
- イ 中原スポーツまつり 10,000円
- ウ なかはらランニングフェスタ 20,000円

(7) ボランティア銀行なかはら福祉活動助成

地域福祉活動を自主運営で行っている当事者・ボランティアへ公募及び申請方式で行い、

ボランティア銀行なかはら運営委員会にて、助成審査を行った。

ア 会員以外の団体	申請	18団体・交付	16団体	計	425,000円
イ 地区社協、区民児協、地区民児協	申請・交付	2地区社協		計	507,469円

7 委員会等活動事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会議の開催

地区社協会長会議の開催 1回（6月7日）

地区社協会長・区民児協正副会長合同会議 1回（9月14日）

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

市・区役所、地域包括支援センター、社会福祉施設・団体等の主催会議に参加した。

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」 毎月発行

8 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

(2) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末見舞金配布 721世帯 計 3,605,000円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室及びボランティアコーナーの貸出し

研修室 341件、ボランティアコーナー 258件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

通年

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

社協、行政、関係機関・団体等の広報物 通年

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数 10件

1 1 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（6月14日、10月27日、2月28日）

(2) ボランティア依頼及び活動希望の相談・調整

- ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 52件（令和4年度 57件）
- イ ボランティア募集の依頼 40件（令和4年度 34件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

- ア 情報紙「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）
- イ 広報活動

情報紙やボランティア相談等を通じてボランティアセンターを周知した。

また、なかはら福祉健康まつりに参加してボランティアセンターのPR活動を行った。

(4) 各種講座・セミナーの開催

- ア 区民を対象にしたボランティア養成講座 3講座開催
- イ 夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2023」 4プログラム実施

1 2 中原区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 744件（初回相談29件、継続相談715件）

（※令和4年度相談件数 743件／初回相談39件、継続相談704件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 219件（初回相談76件、継続相談143件）

1 3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 79人 ・ ボランティア 85人

(2) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計61,839人

(3) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

運営委員会 ごうじ、中丸子、西加瀬、井田 各3回
等々力、新城、丸子多摩川 各2回

1 4 災害活動関連事業

(1) 災害対策・事業関連

- ア 防災について関係機関との連携強化
中原区防災連絡協議会等で関係機関と災害時の連携について情報交換を行った。
令和5年度第1回及び第2回中原区総合防災訓練に参加した。
- イ 災害ボランティア養成講座 1回開催（1月25日）

1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会中原区支会

募金実績 22,935,984円 達成率 72.9%

(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1 6 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援SOSかわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、食糧を必要としている世帯へ食糧を配分した。

また、地域生活支援SOSかわさき事業連携ネットワーク会議（中原区会議）を開催した。令和6年2月28日 参加者数 27人

そのほか、中原老人福祉センターとの連携を図り、センターの事業運営に協力した。

川崎市高津区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 健康づくり・いきがづくり推進

認知症高齢者及びその家族への支援

認知症高齢者また、その家族の方々を地域で支える社会を目指し、今年度は高津第2地区社協を中心に認知症カフェの見学など認知症普及啓発の検討を行いました。

また、区社協、地区社協関係者が認知症に関する理解を深めることを目的として、区社協・地区社協研修において、認知症当事者のメッセージを聞くと共に、帝京大学医学部附属溝口病院中根先生による認知症の基本的理解の研修を実施しました。

2 活動・交流の場づくりや機会づくり

地域福祉活動の活性化・参加促進

困ったときにはお互いさまで、助け合うことができる地域づくりをすすめるために、住民主体の取組である「たかつの縁側」「子育てサロン in しもさくのべ」「人生100年会」など居場所づくりの支援や、高津区ボランティアセンターの運営を通じて、活動を始めるきっかけとなる傾聴講座の実施や活動者同士のつながりを作る交流会を実施しました。

また、ふれあい会食会や親子で楽しめる行事の開催、「橘地区内の福祉施設との交流会」など、区内の地区社会福祉協議会の活動を支援し、住民主体の活動の活性化、住民参加の促進に努めました。

ボランティア関係においては、小学生から大学生を対象とした「チャレボラ2023」を市内社協で共催し、若者に福祉の学びの場を提供するとともに、ボランティア活動への参加促進に努めました。

さらに、今年度は、社会福祉法人の地域貢献としての地域生活支援SOSかわさき事業を活用し、地域と社会福祉法人施設との交流会を実施する他、地域で障害者の理解を深めるべく、川崎市育成会手をむすぶ親の会と高津区身体障害者協会が実施する研修会の開催を支援しました。

3 災害時の支援体制の充実

高津地区防災訓練（東高津小学校にて実施）に加え、今年度は橘地区防災訓練（橘小学校にて実施）にも参加し、町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるようにパネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行いました。

4 行政との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターをはじめとする行政機関と、定期的な連携会議等において、地域課題や地域活動の支援、区民一人ひとりの自助・互助活動が促進されるような取り組みについて協議する他、地域活動や民生委員児童委員協議会への支援、新たな民生委員発掘のための講座の周知への支援、健康福祉まつりなどに協働して取り組みました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【82,576千円】

【サービス区分事業活動支出 74,109千円】

【共同募金配分金 8,467千円】

1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（6月1日、9月27日、2月21日）

イ 運営協議会の開催 2回（6月2日、2月22日）

(2) 地区社協・地区民児協会長会議

ア 地区社協・地区民児協会長会議の開催 2回（6月1日、1月12日）

(3) 会員、賛助会員実績

ア 正会員 122件

イ 賛助会員 2,127件

	R5実績	R4実績
正会員数	122	121
賛助会員数	2,127	2,263

(4) 寄附金の受入れ活用

ア 寄託金 21件 1,303,219円

イ 寄託品 0件

	R5実績	R4実績
寄託金（件）	21	21
寄託金（円）	1,303,219	1,374,997
寄託品（件）	0	3

2 調査・研究事業

(1) 第4期高津区地域福祉活動計画の推進

令和5年度は、令和2年度に中間見直しを行った計画に基づいて事業の推進に努めました。

(2) 第6期川崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画の策定（市区社協一体策定）

令和2年4月に市社協と7つの区社協が法人合併したことから、市区社協の理念や目標を一つに「川崎市社会福祉協議会 第6期地域福祉活動計画」を策定しました。市社協に設置された推進委員会で策定し、区社協の重点的な取組みについては、区社協常任委員会にて協議・検討しました。

(3) 総合相談（ふくし相談）事業

- ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
（ア）相談件数 241件

3 研修事業

(4) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

- ア 区社協・地区社協研修会の開催 1回（3月13日）

4 企画・広報事業

(1) 広報紙「おあしす」（年2回発行、編集委員会の開催）・情報紙「トピックス」（毎月発行）

- ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 6回
（6月15日、7月12日、8月3日、12月1日、1月16日、2月7日）
- イ 情報紙「トピックス」年12回、各550部発行

(2) ホームページの運用

- ア ホームページでの情報発信
高津区社会福祉協議会 ホームページ (<https://takatsuku-shakyo.jp/>)

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭等への参加

- ア たかつ区健康福祉まつり 8月20日
たかつボランティア・当事者連絡会の参加申込の手続きや参加団体の取りまとめ、また当日の準備などで連携・支援を行った。
高津みんながつながる音楽会を開催した。
- イ 高津区民祭 7月31日
今年度は規模縮小での開催に伴い、高津小学校の校庭の一部に高津区社会福祉協議会のブースを設置、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

- 共同募金配分金を財源とした交付金及び賛助会費の配分金を高津区内の4地区社協へ活動費として助成した。
また、地区社協が地域の高齢者、障害児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動や地域づくりの取組（高津第一地区社協「高齢者サロンたかつの縁側」、高津第二地区社協「子育てサロン in しもさくのべ」、高津第三地区社協「人生100年会」、橘地区社協「橘地区内の福祉施設との交流会」など）に対し、情報提供や連絡調整、企画、事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 「おたっしや10のトライ」推進事業の推進

- 高津区の健康運動「おたっしや10のトライ」を推進するために、健康運動普及推進チーム会議を開催した。
健康運動普及推進チーム会議の開催 2回（5月12日、1月31日）

(3) 「おたっしやでつながる地域の輪」推進事業の実施

- ア 高津みんながつながる音楽会を健康福祉まつりの中で開催した。(8月20日)
- イ テントラ音頭の普及として踊り方の講習会を開催した。2回(6月19日、6月26日)

(4) 高津区敬老会の開催(祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催)

- 高津市民館を会場として、90歳祝の方を会場に招待し開催した。併せて、区内老人クラブの功労者、地域福祉活動の功労者、多額寄付者の方への会長表彰、会長感謝を行った。
- ア 高津区敬老会 9月9日
 - イ 実施委員会の開催 3回(6月8日、7月27日、9月9日)

(5) 福祉用具(車いす)の貸出し

区民及び福祉教育(車いす体験)のための車いす無料貸出 334回

(6) 移送サービス事業の実施(移送車による移送サービス、車両貸出し)

- ア 移送サービス利用件数67件(車両貸出は0件)(※令和4年度 107件)

(7) 子育て支援事業の推進(こども子育て支援事業推進委員会の開催、子育て支援講座の開催、子育て支援グッズの貸出し)

- ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 4回(6月9日、8月23日、1月29日、3月22日)
- イ 子育て支援研修会の開催 1回(11月16日)実施
- ウ 子育て支援グッズの貸出し 23件(個人向け0件、機関・団体向け23件)

(8) 認知症高齢者及びその家族への支援に向けた普及啓発

- ア 認知症普及啓発に向けた意見交換会 2回(5月10日、12月13日)
- イ 認知症カフェ見学 5回(4月5日、10月20日、10月21日、10月24日、10月26日)

6 団体等助成事業

(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,767,000円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計2,946,300円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成(審査会の開催)

ボランティア・当事者団体等への助成金 58団体 計1,355,000円

(4) ふれあい会食・配食、ミニデイケアへの助成

- ア 会食活動に助成 13団体 計1,461,213円
- イ 配食活動に助成 0団体
- ウ ミニデイケアに助成 0団体

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成(推進委員会への参画)

第73回社会を明るくする運動への助成 50,000円
社会を明るくする運動高津区推進委員会(5月29日)

(6) 寄附金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

本会会員を対象に特別記念事業への助成 2団体 計150,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（6月1日、1月17日）

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

年末見舞金の配布 605世帯・計1,815,000円
年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催1回（12月4日）

(3) 年末たすけあい募金を基にしたクリスマスケーキの配布

年末たすけあい募金を基に、区内の生活困窮者世帯で小学生以下のこどもがいる世帯に対して、クリスマスケーキを配布した。（12月23日、12月24日）

8 福祉パル管理運営事業

(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

研修室A 287件、研修室B 74件、フリースペース 355件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

印刷機は予約制により貸出

(4) 福祉広報物の配架・掲示

行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業

(2) 生活福祉資金貸付事業

ア 相談・問合せ件数 722件

イ 区内貸付決定件数 27件

(2) 民生委員児童委員を通じての現況調査

県社協からの依頼により民生委員児童委員を通じて現況調査を実施した。

(3) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

(4) 特例貸付借受者のフォローアップ支援

区社協の「地域の連携による孤立しない支援」と市社協生活再建支援室の「アウトリーチによる個人の生活を支える支援」により特例貸付借受者に寄り添った支援を展開した。

10 ボランティア活動振興事業

(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（5月22日）、事業企画部会の開催 8回（5月19日、6月29日、7月20日、8月29日、10月25日、12月18日、2月1日、3月15日）

(2) ボランティア講座の開催

- ア 傾聴入門講座の開催（9月26日） 参加者17名
- イ 災害ボランティアセンター研修会の開催（10月16日） 参加者15名
- ウ 認知症講座の開催（12月15日）参加者20名
- エ 高齢者向け食事サービス団体交流会の開催（12月4日）参加者5名

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

ア ボランティア相談件数

- (ア) ボランティア活動依頼 17件（令和4年度 14件）
- (イ) ボランティア活動希望 15件（令和4年度 20件）

イ ボランティア保険の利用促進

各種行事を実施する団体や、ボランティア活動を行う個人に対し、リスクマネジメントの観点より、保険のメリットについての周知および保険の利用を促した。

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 2団体 計150,000円

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

- ア 第12回たかつボランティアまつりの開催（1月18日）
- イ 第31回たかつ区健康福祉まつり（8月20日）（再掲）

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

- ア 福祉教育に関する相談 9件
- イ 体験用車いすの貸出 5件

(8) 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2023」の実施（川崎市社協・市内他区社協・関係施設等の共催）

- ア 災害ボランティア体験（7月28日）参加者19名

- イ 子どもの外遊びサポートボランティア体験（8月1日）参加者2名
- ウ ニヶ領用水清掃ボランティア体験（8月6日）参加者13名
- エ ミニデイケアで高齢者とのふれあいボランティア体験（8月17日）参加者5名

1 1 高津区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 636件（初回相談28件、継続相談608件）

（※令和4年度相談件数 492件／初回相談31件、継続相談461件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 164件（初回相談72件、継続相談91件）

（※令和4年度相談件数 279件／初回相談86件、継続相談193件）

1 2 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 53,053人（団体36,812人、個人16,241人）

（令和4年度 50,863人〔団体34,427人、個人16,436人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 403回、4,043人

（令和4年度 413回、3,757人）

(3) ミニデイケアサービス事業

ア 上作延老人いこいの家で実施 参加人数77人、ボランティア人数341人

12回（4月20日、5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月21日、
10月19日、11月16日、12月21日、1月18日、2月15日、3月21日）

イ 末長老人いこいの家で実施 参加者数79人、ボランティア人数182人

12回（4月13日、5月11日、6月11日、7月13日、8月10日、9月14日、
10月12日、11月9日、12月14日、1月11日、2月8日、3月14日）

ウ 東高津老人いこいの家で実施 参加者数52人、ボランティア人数191人

10回（4月21日、5月19日、7月21日、8月18日、10月20日、11月17日
12月15日、1月19日、2月16日、3月15日）

(4) 夜間・休日開放事業

ア 梶ヶ谷老人いこいの家で受託。今年度利用無し

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

高津老人いこいの家 1回（8月30日）

上作延老人いこいの家 3回（9月14日、12月7日、3月5日）

子母口老人いこいの家 3回（5月30日、9月11日、1月29日）

末長老人いこいの家 2回（6月19日、8月29日）

- 梶ヶ谷老人いこいの家 1回（8月8日）
- 東高津老人いこいの家 1回（3月4日）
- くじ老人いこいの家 3回（7月5日、9月29日、3月26日）

（6）老人いこいの家管理人研修

老人いこいの家管理人の資質向上を目的として、施設部会ふくしの出張講座を活用し、全管理人（研修時）を対象に、管理人研修を実施した。

また、普通救命講習を管理人全員が受講し、防火管理者講習会を異動者及び新任管理人全員が受講した。

- ア 高齢者への対応、コミュニケーション術（11月21日、11月22日、11月27日）
参加者24人
- イ 普通救命講習 参加者25人
- ウ 防火管理者講習会 参加者5人（※既に受講している新任管理人を除く）

1 3 災害活動関連事業

（1）災害ボランティアセンター設置運営訓練

高津地区防災訓練（東高津小学校にて実施）、橘地区防災訓練（橘小学校にて実施）に参加し、町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。

1 4 団体事務

（1）神奈川県共同募金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、支会委員会の開催（6月1日、1月17日）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施

募金実績	一般募金	9,991,428円	達成率66.0%
	年末たすけあい募金	7,581,817円	達成率72.2%

（2）高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（総会、理事会、常任理事会、研修会、新任民生委員児童委員研修会）、連絡調整、その他事業を実施。

1 5 その他

（1）総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係機関・団体と連携して支援に努めた。

（2）行政等との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議を定期的に行い、情報交換を行うと共に、地域のサロン活動の支援等について協働して取り組んだ。

高津区全町内会連合会と高津区賀詞交換会を開催した

ア 高津区役所との連携会議4回（5月1日、7月6日、11月13日、3月19日）

イ 高津区賀詞交換会

1月6日（土）参加者470人

参加者から能登半島地震義援金として、142,200円の募金をいただいた。

(3) たかつ心のパワーアップセミナーへの協力

第17回たかつ心のパワーアップセミナーの実施（6月3日）

実行委員会4回開催。実行委員会解散に伴い協力終了。

(4) 高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

ア 川崎市育成会手をむすぶ親の会と高津区身体障害者協会が実施する研修会の開催支援
2月28日

イ 川崎市北部身体障害者福祉会館運営委員会への出席 3月6日

(5) 行政及び福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

行政及び区内福祉関係団体等からの依頼に基づき、共催及び後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生1名（法政大学）の受け入れを行った。（8月31日～9月13日）

(7) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

地域生活支援SOSかわさき事業、施設部会障害者福祉施設協議会と民生委員児童委員協議会との福祉でつながる地元交流会など、市社協の各種事業・取り組みに協力した。

川崎市宮前区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動拠点の調査及び開拓

宮前区では区内に50を超えるコミュニティカフェがあり地域住民の集う拠点としての役割を担っていますが、長期間の新型コロナウイルス感染予防に伴い、区内の多くのカフェから利用者数が減少しました。このことから区社協が事務局を担っている「みやまえカフェ連絡会」においては、役員会を5回、全体連絡会を3回、レクリエーション研修等を開催し、区内のコミュニティカフェがより活性化するように努めました。

また、年末たすけあい募金を原資とした、福祉団体育成支援金を活用した新たなカフェ創設についての相談対応も行いました。

2 区社会福祉協議会のPR活動の強化

広報誌「みやまえの福祉」を年4回、町内会・自治会回覧板に載せていただくことにより、広く地域の方々に区社協活動のPRを行いました。広報誌面では、みやまえ福祉フェスティバルの開催お知らせや、コロナ禍前の規模に戻して開催された様子を当日の写真等を載せることによりPRしたことや、健康寿命の延長を目的として、「いつまでも元気で暮らすために」運動習慣・良い食事・良質な睡眠・他者とのコミュニケーションを大切なこととし、公園体操やコミュニティカフェ、いこいの家の講座などへの参加を促しました。

また、ホームページについては、「みやまえの福祉」を閲覧できるようにし、ボランティア団体のメンバー募集や老人福祉センターの講座等に関する情報を更新・発信しました。

3 相談機能の強化・充実

生活困窮者からの相談に対して生活福祉資金が活用できる方には、詳しい手続きや必要書類について丁寧に説明し、生活福祉資金では対応が難しい方に対しては、他機関で行っている支援制度の説明や連絡先をお伝えしました。償還の厳しい世帯からの相談時には償還金額の変更や猶予申請など相談対応を行いました。

また、日常的な電話、来所での相談対応について、川崎市社協内で「ふくし相談」と名称を統一し、相談内容の統計を整理することで、継続的な相談機能の充実と体制の見直しを図りました。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【69,993千円】

【サービス区分事業活動支出 64,576千円】

【共同募金配分金 5,417千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 4回
- ・ 運営協議会の開催 1回

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 1回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 2回

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催の上協力を依頼、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい運動実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやまえ福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

常任委員会で川崎市社会福祉協議会第6期地域福祉活動計画の宮前区版を検討する際に、第4期宮前区社協地域福祉活動計画の振り返りを行った。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまえカフェ連絡会について全体会(3回)・役員会(5回)とレクリエーション研修を行った。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

常任委員会研修会は、開催なし

(2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

区社協会員研修会を3月4日に、「終活支援事業とエンディングノート」を市民館大会議室で開催した。

(3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

令和5年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、担当地区であった有馬鷺沼地区社会福祉協議会の講座が中止となった。

4 企画・広報事業

(1) 第22回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

令和5年11月19日(日)に市民館で、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」を開催した。地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および福祉の普及、理解を目的として、ドキュメンタリー作家の信友直子監督がアルツハイマー型認知症を患った自身の母と、献身的に支える父の老々介護生活をカメラに収めた映画「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」の上映を行った。

また、各地区社協および区内関係団体等の協力の下、親子体操やパラスポーツの体験ブースや模擬店の出店等を行った。

(2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行（全4回発行）

平成29年度から、「宮前・ボランティア活動情報」と一本化し、地域の福祉情報等を総合的に掲載し、区内の福祉活動の啓発に努めている。

令和5年度の主な記載内容としては、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため縮小して実施していた「みやまえ福祉フェスティバル」を、新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻し、大々的に実施した報告と、区内で行われている「公園体操マップ」の紹介をはじめ、今からできる健康づくりなど、健康増進に特化した記事を掲載しました。

令和5年度の総発行部数は34,700部。主な配布先は各関係機関、町内会・自治会など。

(3) ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。また、市社協のホームページのリニューアルに伴い、区社協においてもリニューアルに取り掛かった。

(4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より地域に密着した親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

令和5年度途中からの町内会・自治会の回覧は再開したものの、引き続き新しい幅広い世代や対象に向けた情報発信の在り方に関する手段として、SNSの活用方法に関する検討を行った。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

(2) 子育て支援事業の実施

① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくりを推進するために、子育て支援関係者連絡会に参加し、転入世帯を支援するWELCOME！みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ・サロン・赤ちゃん広場等交流会の実施に協力した。

また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、昨年まで中止となっていた、様々な活動が実施可能となり移動動物園等を再開することが出来た。

② ふれあい動物コーナー実施

みやまえ子育てフェスタにて、昨年度までは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止していた、未就学児世帯を中心に親子のふれあいを目的とした移動動物園を再開した。また、その他の運営部分でも協力を行った。

(3) 車いす貸出事業

怪我などに伴い一時的に歩行が困難となった方などを対象に、短期的かつ単発的な使用に限り、無料で利用いただくことができる車いす貸出事業を実施した。

保有車両については、自走式、介助式のそれぞれのタイプを揃え、希望に応じて、貸出を行っていたが、車両の老朽化に伴い、保有していた20台のうち、3台の買い替えを行った。また、膝の屈伸がしづらい利用者が乗車した際に座面が破れた事例が発生したため、1台は耐荷重が130kgまでの車いすを購入し、より多様なニーズに応えることができる体制づくりを図った。

貸出のべ台数 156台

(4) 買い物支援サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設の車両を使用し、運転・添乗ボランティアの協力のもと新型コロナウイルスの感染状況を見ながら運行した。

協力法人施設：社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設鷺ヶ峯

社会福祉法人アピエ 宮前フレンズ

社会福祉法人子の神福祉会 特別養護老人ホーム富士見プラザ

(5) 医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要介護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

②徘徊高齢者SOSネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前に登録することにより、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえSOSネットワーク」に協力をした。

③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

(6) 総合相談（ふくし相談）事業

- ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
- （ア）相談件数 53件

(7) 在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催している。「在宅介護者のつどい」への情報提供並びに他機関や地域に向けた広報活動の支援を行った。

6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

(1) ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

(2) 地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会
宮前区子ども会連合会

7 共同募金配分金事業

(1) 共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて13,854,717円の実績をあげることができた。

また、令和5年度は、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」に関し、新型コロナウイルス感染が感染症5類に引き下げられたことを踏まえ、発声による呼びかけも再開され、10月1日から8日までの計8日間で実施し、全30団体の参加協力をいただき、募金運動（活動）を行うことができた。

(2) 年末たすけあい見舞金配分事業

①年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を財源とした、年末たすけあい見舞金に関し、今年度申請いただいた配布対象の方、265名の方に配布を行った。(1名あたり5,000円)

②福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう14団体に向けて、総額 530,000円の助成金を交付した。

③当会が実施する各種事業において、配分金を活用した。

8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

(1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 418件 2,889人 / フリースペース利用件数26件 108人

(2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等地域活動に必要な機器、機材の貸し出し

9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

(1) 相談件数

1,809件 (特例貸付含む)

(2) 新規貸し付け決定数

20件、8,026,000円 (不承認1件含む)

(3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。

10 ボランティア活動振興事業

相談・情報提供・連絡調整・啓発・人材養成を行い、宮前区のボランティア活動の振興を図った。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 3回開催

(2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティア活動調整及び情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望25件、ボランティア依頼23件

(3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまへの福祉」と一本化し、年4回、団体、施設、個人からのボランティア相談・依頼のほか、災害ボランティアや福祉情報を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

①小中学校の福祉教育授業への協力

(ア)区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車いす等の貸出

(イ)講師の紹介

②関係施設・機関等の研修への協力

(ア)区内関係施設・機関の研修への車いす等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

大人のためのチャレンジボランティア

日時	会場	内容	参加者数
R6. 2. 7(水)	土橋会館	【カフェ活動】 ・カフェ運営のお手伝い ・利用者さんのお話し相手	1名
R6. 2. 8(木)	蔵敷自治会館	【子ども食堂活動】 ・食堂運営のお手伝い ・子どもの見守り、お相手	2名
R6. 2. 9(金)	宮崎台こども文化センター	【子育てサロン活動】 ・サロン運営のお手伝い ・乳幼児等の見守り、お相手	1名
R6. 2. 19(月)	福祉パルみやまえ	【視覚障がい者支援活動】 ・定例会、勉強会の参加 ・視覚障がい者さんとのコミュニケーション	2名
R6. 2. 21(水)	向丘出張所	【カフェ活動】 ・カフェ運営のお手伝い ・利用者さんのお話し相手	3名
R6. 2. 28(水)	福祉パルみやまえ	【傾聴活動】 ・定例会、勉強会の参加 ・個人宅または福祉施設等での活動	1名

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2023」の開催

①視覚障がい者へのお手伝い！声掛け誘導体験

日時	会場	協力	参加者数
R5.7.26 (水)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	・白杖ユーザー ・ガイドヘルパー ・PCサポートの会	5名

②福祉の目でまちを点検！車いす介助体験【福祉マップ作り】

日時	会場	協力	参加者数
R5.7.28 (金)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	・車いすユーザー ・NPO法人川崎介護福祉士会 ・株式会社ライフコーポレーション ・東急電鉄株式会社	4名

③Let's enjoy 公園清掃！きれいな公園を私たちの手で

日時	会場	協力	参加者数
R5.8.1 (火)	・犬蔵さくらの丘公園 ・宮前美しの森公園	・宮前区道路公園センター ・さくらの丘公園管理運営協議会 ・犬蔵自治会	22名

③ポッチャを通してボランティア体験！

日時	会場	協力	参加者数
R5.8.4 (金)	れいんぼう川崎	・れいんぼう川崎	1名

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口業務を行った。

令和5年度保険加入件数192件

1 1 宮前区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 985件 (初回相談46件、継続相談939件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 274件 (初回相談105件、継続相談169件)

1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数（5館） 16回

(2) 管理人研修会

3回実施、5名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数（5館） 43,326人

(4) 教養講座の実施

教養講座実施回数、参加者数（5館） 延べ94回、1,130人

(5) ミニデイケア事業の開催状況（3ヶ所）

参加人数 計 419人 ・ ボランティア数 計 636人

(6) 夜間・休日等施設開放事業（1ヶ所）

利用人数 計 1,015人

1 3 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

川崎市内郵便局長防災研修会に参加して、グループワークの中で宮前区社協の災害発生時の初動対応や災害ボランティアセンターの設置について説明した。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

川崎市内郵便局長防災研修会に参加して、郵便局長とグループワークをとおして発災からの時間経過毎のそれぞれの役割や協力内容について確認を行った。

1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ〜や」

全体会(3回)・役員会(5回)とレクレーション研修を行った。

(4) 関係団体の事務協力

15 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

令和6年賀詞交換会は、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより久しぶりに飲食を伴った形で実施した。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施

16 老人福祉センター管理経営事業（指定管理事業）

年間利用者数状況

(単位：人)

利用者数		合 計	入浴者数	健康相談		生活相談
団 体	個 人			医 師	保健師等	
7,595	18,233	25,828	2,730	26	138	86

川崎市多摩区社会福祉協議会 令和5年度事業報告

◆重点事業◆

I 地域福祉活動計画の策定

(基本目標2行動計画4)

平成29年度に策定した第4期地域福祉活動計画は、多摩区役所と多摩区社会福祉協議会で基本理念を共通とし地域福祉の推進を図りました。

今回の第6期地域福祉活動計画策定では、法人合併した川崎市社会福祉協議会としての基本理念、基本目標を掲げて事業を推進していくこととしました。

さらに、多摩区社会福祉協議会では「地域福祉活動事業計画」として、3年間の計画期間中に取り組む重点事項を設け、多摩区役所が策定した多摩区地域福祉計画とも整合を図りながら事業に取り組むことにしました。

II いこいの家の次期指定管理の受託に向けた取組と諸事業の推進

(基本目標2行動計画3)

いこいの家の次期指定管理者の募集に対して川崎市社会福祉協議会として応募し、プレゼンテーション等の審査を経て、次期指定管理者として指定されましたので、令和6年度からも引き続き多摩区のいこいの家の管理運営を行っていきます。

令和5年度の取り組みとしては、多世代交流として、区内の大学や専門学校の学生の協力を得て、スマホの使い方を気軽に聞ける交流会の実施、長尾いこいの家を会場として子育て中の親子から高齢者までが集えるおしゃべりサロンを開催し、高齢者と若年世代の交流を深めました。また、「ふくし寄合処たま」では、エンディングノートの書き方についてなど、テーマに沿った情報交換を行いました。

III ボランティア活動の推進

(基本目標1行動計画1)

社会人を対象とした3ステップ（オリエンテーション、ボランティア体験、まとめの会）のボランティア体験講座を実施し、ボランティア体験は延べ16人が参加しました。また、全市で実施している「夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習《チャレボラ2023》」については、多摩区では4つのプログラムを実施し、子ども26名、保護者14名が参加しました。

IV あんしんセンター事業の推進

(基本目標1行動計画2)

日常生活自立支援事業は初回相談が33件あり、継続相談と合わせ1471件の相談を受け、延べ518件の支援を行いました。成年後見支援センター事業では、初回相談87件、継続相談と合わせて延べ228件の相談を受け、延べ77件の支援を行いました。また、多摩川の里身体障害者福祉会館や飯室松寿会主催の研修会にて、成年後見制度の出張講座を行い周知に努めました。

事業報告の内容

多摩区社会福祉協議会 事業費【72,062千円】

【サービス区分事業活動支出	63,769千円】
【サービス区分施設整備等支出	196千円】
【共同募金配分金	8,097千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会、正副会長会議の運営

- ア 常任委員会の開催 4回
6月1日、8月31日、11月29日、2月28日
- イ 運営協議会の開催 2回（他、書面による意見徴収1回）
6月12日、3月11日
- ウ 正副会長会議の開催 4回
6月1日、8月8日、12月13日、3月11日

(2) 一般会員、賛助会員、協賛会員の募集

令和5年度は119団体が継続して一般会員となりました。
また、賛助会員の募集については、コロナが収束に向かったことにより、例年の個別訪問による募集を10月から11月までの2か月間で実施しました。
(実績 賛助会員(件数) 2,652件 賛助会費 3,600,500円)
さらに、自主財源確保のための各種会員募集・寄附金募集では、広報紙や区社会福祉協議会ホームページを活用した広報活動を行いました。

2 調査・研究事業

(1) 地域福祉活動計画の策定

令和5年度は事業計画で掲げた第6期地域福祉活動事業計画を策定いたしました。
川崎市社会福祉協議会（市社協）の策定した第6期地域福祉活動計画の理念と目標を元に、年度内に区社協内で開催した常任委員会、運営協議会にて意見交換や検討を重ね、計画の重点事項として「総合相談の充実と適切な支援の実施」、「地域福祉活動の推進と多世代交流の促進」、「地域ネットワークの強化と地域福祉活動推進のための財源の確保」、「福祉教育等の推進による新たな地域福祉の担い手の育成」の4つを掲げることが決定致しました。
今後は多摩区役所の第7期多摩区地域福祉計画とも整合を図りながら、市社協と連携して事業を推進していきます。

(2) 種別会議等によるニーズ調査

第5種会員種別会議の中で令和5年度の賛助会員募集について検討しました。その結果、前年度は行わなかった地区社会福祉協議会関係者（町会自治会、民生委員児童委員

等)の訪問等による賛助会員募集を再開することになりました。

第6種会員種別会議では令和4年度末に行ったSOSネットワーク会議の開催報告をし、令和5年度以降の開催について協力を依頼しました。

上記種別会議と9種、10種、11種会員種別会議に共通して、委員の推薦や令和5年度の区社協事業計画の説明及び会員間の情報交換を行いました。

3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社協だより多摩」の発行

区社会福祉協議会の事業活動の紹介や、関連する福祉情報の提供を行うとともに、広く社会福祉に関する啓発を行うため、広報紙「区社協だより多摩」を年4回発行しました。

広報紙は、区社会福祉協議会会員や関係機関等への配布と併せ、多摩区内の町会・自治会での回覧(年4回)を行いました。さらに、ホームページへの掲載や音声版広報紙の作成により、多くの区民への情報提供を行いました。

(2) ホームページ、フェイスブックの運営

ホームページでは、広報紙「区社協だより」「たまぼら」「各地区社協だより」。ボランティアの募集、老人いこいの家の月間予定、おしゃべりサロン「いちにのさん!」等の情報の更新・発信を行いました。

また、生活福祉資金の新型コロナ特例貸付の制度変更・受付終了等の新着情報等、随時情報を掲載しました。

さらに、高齢者フリーパスのIC化の事務や福祉パルでの販売窓口終了等の周知も行いました。

(3) 第16回多摩区社会福祉大会の開催による啓発活動

社会福祉に関する啓発活動を広く行うとともに、多年にわたり地域福祉に貢献された個人及び団体に感謝を表すことを目的として、地区社協、町会・自治会、民児協、老人クラブ、ボランティア・当事者団体、その他関係機関の協力のもと、3月5日に第16回多摩区社会福祉大会を開催しました。

第1部の記念式典では、7名へ感謝状の贈呈を行い、第2部では、地域福祉の啓発のため映画「最高の人生の見つけ方」を上映し、480名の地域住民の方々にご参加いただきました。

(4) 多摩区民祭参加による啓発活動

「第46回多摩区民祭」への助成を行うとともに、募金活動やパネル展示、広報紙の配布等、PR活動による参加・協力を行いました。

4 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会活動の支援

区内の5つの地区社会福祉協議会が主体的に地域福祉活動に取り組めるよう支援を行うとともに、相互の連絡調整や連携のための地区社会福祉協議会会長会議を4回開催し、賛助会員募集についての検討の他、市社会福祉協議会が作成する地区社協概要集や、地域生活支援SOSかわさき事業等についての情報交換を行いました。

(2) おしゃべりサロン「いちにのさん！」の実施

令和4年度から実施した、多世代交流事業のおしゃべりサロン「いちにのさん！」を、令和5年度も引き続き、月1回、原則第4水曜日に長尾老人いこいの家を会場として、開催しました。

広報について、開催案内のチラシを掲示・配架していただけるよう、呼びかけを行い、新たに設置協力していただく機関を増やしました。

また、稲田東地区民生委員児童委員協議会の民生委員や、主任児童委員にも、参加していただくなど、運営協力をしていただきました。

(3) 車椅子の貸出

障害や高齢、病気やけが等で外出が困難な区民の生活上の便宜を図り、社会参加を促進するため、車椅子を延べ240台を貸し出しました。

また、車椅子を管理していく上では、傷害保険・賠償責任保険に加入するとともに、破損や劣化が見られる物については随時メンテナンスと修理を行いました。

5 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

賛助会費を原資とした「地域福祉活動費助成」や共同募金配分金を原資とした「育成交付金」、「福祉活動助成金」などの助成事業により、地区社会福祉協議会が実施する地域福祉活動の支援を行いました。

(2) 寄付金を財源とした当事者団体、ボランティアグループへの助成

寄付金品を受入れ、「助成金配分委員会」を開催し、第9種会員（障害者等当事者団体）、第10種会員（ボランティアグループ）への配分を行いました。

(3) 高齢者ふれあい活動支援団体への助成

会食会、ミニデイサービス活動、配食サービスを対象とした「ふれあい活動支援事業助成」等の助成事業を通じて、在宅福祉活動の支援を行いました。

また、多摩区内の高齢者ふれあい活動実施団体を対象とした交流会を開催しました。

6 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を推進しました。

赤い羽根募金（一般募金）実績額	9, 209, 172円
年末たすけあい募金実績額	6, 681, 564円

(2) 共同募金配分事業の実施

神奈川県共同募金会からの配分金を各地区社会福祉協議会に育成交付金として交付するとともに、地域福祉の推進のために開催される行事への助成を行ったほか、本会が行う各種事業に充当して有効に活用しました。

一般募金配分金額	1, 423, 127円
年末たすけあい募金配分金額	6, 803, 097円

ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付

年末慰問金を申請した福祉的ニーズを持つ世帯への交付について、年末たすけあい配分委員会において交付額等を検討し、571世帯に年末慰問金2, 284, 000円（1世帯4, 000円）を交付しました。

イ 福祉車両の貸出事業の実施

障害や身体機能の低下等で、公共交通機関による移動が困難な方を対象に「福祉車両貸出しサービス」を実施し、令和5年度は41件の利用がありました。

ウ 子育てグループ交流会の実施

子育て関係者のつながりを築くために多摩区内3団体の母親クラブを対象とした交流会を開催しました。交流会では、お互いの活動状況や、質問等を話し合い、情報を共有することができました。また、会場を長尾老人いこいの家で開催している、おしゃべりサロン「いちにのさん！」内で実施し、交流会が終了した後、当日のイベントと一緒に参加していただき、おしゃべりサロンに参加している親子や高齢者の参加者とも交流をしていただく機会となりました。

エ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成

地域福祉活動の立ち上げを支援する地域福祉貢献事業の起業助成事業については、今年度は2件の申請があり、要件を満たして助成に至りました。

オ 福祉関係団体、行事への助成

（母親クラブ、社会を明るくする運動、多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり）

多摩区内の3つの母親クラブの活動を支援するため、1クラブ5, 000円の助成を行いました。また、社会を明るくする運動に60, 000円、多摩ふれあいまつり及びたまたま子育てまつりには200, 000円の助成を行いました。

カ 広報紙「区社協だより多摩」の発行

キ ホームページの運営とフェイスブックの活用

ク 第16回多摩区社会福祉大会の開催

ケ 多摩区民祭参加による啓発活動

コ 地区社会福祉協議会への助成

- サ 大学生と高齢者との交流事業の実施
- シ 各種ボランティア講座の開催
- ス 福祉教育の推進
- セ 総合防災訓練等での災害ボランティアセンターの周知活動
(※カ～セは他の事業項目にも掲載)

7 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室、ボランティアコーナーの貸出し

川崎市から「福祉パルたま」の管理運営業務を受託し、地域福祉活動・ボランティア活動の拠点施設として、研修室およびボランティアコーナーの利用提供を行いました。

	年間利用件数	年間延べ利用者数
研修室	372件	5,510人
ボランティアコーナー	124件	526人

(2) 印刷機等の機材、機器の貸出し

福祉関係団体や町会自治会などに対し印刷機や折り機の貸出を行いました。

	年間利用件数
印刷機(印刷室)利用	313件

(3) 情報コーナーを活用したチラシ等の配架とポスター等の掲示による広報活動

関係機関、団体から送られるチラシやポスターを配架・掲示し、来館者への情報提供に努めました。

8 生活福祉資金貸付事業

新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付制度の償還が令和5年1月1日から始まり、それに伴い、償還が困難な世帯への償還猶予の相談を受け、10件の来所申請がありました。本則の生活福祉資金については、延1,615件の相談を受け、40件の申請(申請額は、22,147,000円)を受付けました。令和5年度は特に教育支援資金の申請が増え、35件の申請(うち生活保護世帯からの申請は27件)を受け付けました。貸付け対象とならなかった相談については、他機関の紹介や他制度の情報提供等を行いました。

また、生活福祉資金貸付件数などの実績報告を行っている生活福祉資金貸付調査委員会は今和6年度に開催する予定となっております。

なお、滞納世帯への償還支援については、相談者に対して償還方法を案内するとともに、償還免除、償還猶予対象者については当該手続きの案内を行いました。また、償還事務を担当する県社協に協力し、転居者の住所調査を行い、報告を行いました。

9 ボランティア活動振興事業

(1) 多摩区ボランティアセンターの運営

多摩区ボランティアセンター運営委員会を年4回開催し、各部会報告（講座部会、相談・情報部会）や、運営委員研修会、災害ボランティア等について話し合い、事業を推進しました。

また、講座部会では、3ステップのボランティア体験講座を実施しました。相談・情報部会では、ボランティア情報誌「たまぼら」を年4回発行しました。

(2) ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催

6月の多摩ふれあいまつりに出展した他、パサージュ・たまで10月、11月、1月、3月に開催、2月には多摩市民館で開催された「地ケアフォーラム×生涯学習交流会」に出展しました。

また、区民・関係機関等からの相談については、多摩区ボランティアセンター運営委員会に報告し、ボランティアニーズの共有化を図りました。

<年間相談件数>

- ・ボランティアをしたい方の相談 : 39件
- ・ボランティア受け入れ希望者の相談 : 35件

(※電話や来所による相談や、「たまぼらひろば」で受付けた相談件数含む)

(3) ボランティア情報誌「たまぼら」の発行と区社協ホームページの活用によるボランティア情報の発信

ボランティア活動に対する様々な情報の提供を通じて、ボランティア活動への理解や関心を高めることを目的に、ボランティア情報誌「たまぼら」を年4回発行し、区内の関係機関やボランティア活動希望者に送付するとともに、区社会福祉協議会のホームページにも内容を掲載しました。

記事内容には、「ボランティアグループ紹介コーナー」として、相談・情報部会の部員と一緒に、様々なグループの活動を実際に見学、取材を行った内容を、記事に掲載し、多摩区内で活躍しているボランティアグループの周知に努めました。

また、区社会福祉協議会ホームページでもボランティアグループの紹介や、ボランティアの募集情報の発信を行いました。

(4) 大学生と高齢者の交流事業の実施

令和4年度から実施している、「大学生と高齢者の交流事業」について、令和5年度も引き続き、区内老人いこいの家で、専修大学の学生の協力のもと、大学生が高齢者にスマートフォンの操作を教える講座を2回（6月）実施しました。

(5) 各種ボランティア講座の開催

ボランティア活動を始めるきっかけ作りとして、10月14日～12月2日の期間で、ボランティア体験講座「～あなたの知らない世界を見てみよう～」を3ステップで開催しました。

10月14日に、ステップ1のオリエンテーションを開催し、ボランティア活動経験者によるお話しや、これからのボランティア活動に向けての話し合いとして参加者同士でグループワークを行いました。

ステップ2のボランティア体験では、10月18日～11月15日の期間に、6つの体験先の中から、選択して実際にボランティア体験を行いました。

12月2日に、ステップ3のまとめの会を行い、参加者同士で、実際に体験してきた内容や感想等のグループワークを行い、講師の東京ボランティア・市民活動センターアドバイザーの安藤 雄太氏から、これからのボランティア活動に向けての講演をしていただきました。

また、毎年全市で実施している「夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習《チャレボラ2023》」では、多摩区では、昨年も実施した「高齢者施設でボランティア体験をしてみよう！」「ボッチャで障害者スポーツ体験をしてみよう！」「車いす、高齢者疑似体験、白杖体験をしてみよう！」の3つのプログラムに加えて、長尾老人いこいの家で開催している「おしゃべりサロン「いちにのさん！」でボランティア」を加えた、4つのプログラムを実施しました。全体で、子ども26名、保護者14名が参加しました。

(6) 福祉教育の推進

区内の小中学校での総合的な学習としての福祉学習、関係機関や企業での福祉に関する研修等の相談に対して、学習や研修のプログラム作成への助言、講師の紹介、福祉用具の貸出しと、関連情報の提供を行いました。また、福祉教育推進の方向性や課題を検討し実施する福祉教育推進委員会を3回、福祉教育セミナーグループ会議を7回、福祉教育サポートグループ会議を6回開催し、福祉啓発を目的とした事業の取り組みについて話し合いを行いました。

ア 福祉教育に関する相談支援

相談件数 15件（小学校13件、中学校2件）

対応件数 37件（相談1件について複数対応あり）

イ 教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

区内の教職員と福祉学習に携わっている方が交流できる場を設け、今後の福祉学習につながる機会をつくりました。

ウ 福祉教育セミナー、親子参加型福祉講座の開催

親子参加型福祉講座は10月28日（土）に「きこえないってどういうこと？親子で手話体験！！」を開催し、12名（子ども6名、親6名）が参加しました。

区域版福祉セミナーとして「知的障害ってどんな障害？～疑似体験を通して理解を深める～」を11月14日（火）に開催し、14名が参加しました。

エ 福祉教育ハンドブックの周知と効果的な活用の検討

福祉教育ハンドブック第5版の改訂に向けて、現状を把握するために、実際に福祉教育学習の現場の見学を行う等、掲載内容の見直しについて検討をしました。

オ 福祉教育用福祉用具の貸出し

貸出件数 38件（台数149台）

カ ホームページを活用した福祉教育推進に向けての情報発信

10 多摩区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障害者で、福祉サービスの利用契約や日常的な金銭管理を行うことに不安のある方が地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等のサービスを提供しました。

相談件数（延べ） 1471件

支援件数（延べ） 518件

(2) 成年後見制度利用促進事業

川崎市成年後見支援センター事業（川崎市からの受託事業）として、成年後見制度の利用促進に関する事業を行いました。

認知症や知的障害、精神障害等によって判断能力が不十分になった方が、自身の権利や財産を守り、安心して暮らせるように、成年後見制度の利用に関わる相談・支援を行いました。

相談件数（延べ） 228件

支援件数（延べ） 77件

多摩川の里身体障害者福祉会館、飯室松寿会主催の研修会にて、成年後見制度の出張講座を行いました。

11 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館（登戸、菅、錦ヶ丘、長尾、枡形、中野島、南菅）老人いこいの家の管理運営

川崎市の運営方針に基づき、感染拡大防止対策を徹底しながら運営を行いました。

令和5年5月以降は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行はしましたが、換気・ソーシャルディスタンス・手指消毒は継続して対応いたしました。また、例年実施していた講座発表会は、4年ぶりとなることから、規模を縮小することになりましたが、有観客で開催いたしました。

こども世代との交流事業は、3密にならないように配慮し、登戸・長尾・菅・錦ヶ丘・中野島・枡形・南菅、全老人いこいの家で実施しました。

団体利用者数 38,076名（利用団体数 4,552団体）

個人利用者数 9,613名

(2) いこいの家公開講座の開催

地域の方々に老人いこいの家を周知し、利用を促進するためのきっかけ作りとして公開講座を開催しました。「介護予防体操教室」「健康チェック～まちの保健室～」 「スマホ相談会」「筆文字で年賀状作り」「筆文字で暑中見舞い作り」「折り紙教室」「チェアヨガ教室」というテーマで企画し、地域の企業の方・近隣住民の方に講師を担っていただき、単発開催・複数開催するなどの工夫を行いながら開催しました。

(3) 多世代交流事業の実施

老人いこいの家での多世代交流は、換気・ソーシャルディスタンス・手指消毒等の対策を取りな

がら実施しました。

こども文化センターと合築になっている枡形老人いこいの家では、ポッチャでの交流会を夏休みと春休みに実施いたしました。菅老人いこいの家では、夏休みを利用し高齢者と子どもたちが参加する「うちわ作り教室」を昨年に引き続き開催いたしました。また冬休みを利用してポッチャ交流会を開催しました。

単館の登戸老人いこいの家では中野島こども文化センターとの交流を行い、普段利用者が行っている体操を一緒にしたり、新聞ダーツやスプーンリレーを一緒に行いました。

長尾老人いこいの家では、乳幼児の子育て世代と高齢者が共に過ごせるおしゃべりサロンを今年も毎月開催しました。

登戸・中野島・錦ヶ丘・長尾の各老人いこいの家では、ハロウィンパレードの立ち寄り先として、高齢者からプレゼントを渡す担当を担いました。

また、錦ヶ丘・南菅老人いこいの家では、専修大学の協力により、大学生にスマートフォンの操作を聞く交流会を開催しました。

(4) 「ふくし寄合処たま」(登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘)の開催

誰でも気軽に来られる居場所と相談機能を兼ね備えた「ふくし寄合処たま」を、区内5館(登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘)の老人いこいの家で毎月1回開催しました。

地域包括支援センターなどの関係機関と共に地域の方々からの相談を受ける中で、地域の福祉的ニーズを把握し、課題解決に努めました。

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

7館すべての老人いこいの家で、換気・ソーシャルディスタンス・手指消毒等の対策を取って運営委員会を開催しました。

(6) 管理人、臨時職員研修会の開催

老人いこいの家の管理人を対象に、令和6年度に向けた多世代交流の計画について、グループディスカッションを行いました。また、令和6年度から新しい指定管理の期間になりますので、それについて説明を行いました。

(7) 登戸、菅、中野島老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

川崎市からの受託により、区内3館(登戸・菅・中野島)の老人いこいの家で、地区社会福祉協議会やボランティアグループによるミニデイケアサービス事業を実施しました。

1.2 災害活動関連事業

多摩区で開催された川崎市総合防災訓練(会場 南菅中学校)に参加し、災害ボランティアセンターの運営スキル向上を図ることを目的に、災害ボランティアセンター設置訓練を実施しました。

また、災害ボランティアセンターの活動記録をパネル展示し、災害時の社会福祉協議会の活動の周知や、来場者に対して、防災についての啓発を行いました。

1 3 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を推進しました。(「6 共同募金事業」の再掲)

(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

区内の各地区民生委員児童委員協議会の連携を目的とした多摩区民生委員児童委員協議会の事務局を担い、地域福祉活動の推進に深く関わる民生委員児童委員活動への支援を行いました。

(3) 多摩区当事者・ボランティア連絡会「たまわかくさ」への協力支援

区内を拠点に活動している福祉当事者や、ボランティアグループ等で組織している「たまわかくさ」の事務局として、運営委員会や研修会等の実施を支援するとともに、活動経費の助成を行いました。

1 4 その他

(1) 地域の福祉関係機関・団体との円滑な連携関係の構築

令和6年2月2日(金)には、前年度から継続して川崎市社会福祉協議会と共同で実施する「地域生活支援SOSかわさき事業令和5年度多摩区連携ネットワーク会議」を開催して、地区社会福祉協議会と多摩区内の社会福祉法人施設の情報交換及び連携の場を作りました。

また、「食糧支援かわさき」については、昨年度に引き続き区社協会員や関係団体等に呼びかけて食糧の寄贈を受け、食糧を必要としている世帯へ渡しました。(多摩区社協取り扱い件数：延べ10件321食)

社会福祉士相談援助実習の受け入れについては、8月21日から9月14日までの期間、実習生1名を受け入れ、研修プログラムを作成し実習を行いました。

なお、多摩老人福祉センターとの連携については、老人福祉センターが実施する講座や行事の開催を、いこいの家や福祉パルたまでチラシの配布やポスター掲示を行うなど、広報の協力をいたしました。

(2) ふくし相談

生活相談等、年間を通じて162件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へ繋ぐ等の支援を行いました。

川崎市麻生区社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 効果的な広報・啓発事業の展開

広報紙の配布については、タウンニュース紙の一面掲載や区内新聞折り込みの活用、また公式LINEアカウントの活用等、広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。

また、麻生区役所との共催事業として「第34回あさお福祉まつり」を実施しました。今年度はコロナ禍での規模の縮小や参加形態の制約が解消され、支え合いの地域づくりである「地域包括ケアシステム」構築の推進に向け、麻生区の地域福祉活動を多くの区民に周知し、福祉や社協への理解を広めました。

2 地区社会福祉協議会を中心とする住民主体の小地域福祉活動への支援

地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協や関係機関等との協働事業を支援しました。コロナ禍で休止を余儀なくされていた配食等の小地域福祉活動の再開に向け、食事づくりのボランティア講座の実施など、活動の実情に寄り添った相談対応を行いました。

事業委員会では、子育て支援委員会による子育てグループ等交流会の開催等、学習や情報提供の機会づくりに努めました。

3 ボランティア活動振興センター事業（福祉教育を含む）の充実強化

区内のボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できる機会づくりの支援に努めました。コロナ禍により休止していた「ボランティア相談コーナー」を12月に再開し、ボランティアコーディネート委員による相談活動を実施しました。さらに、区内福祉施設のボランティア受入の再開を受け、ボランティアの受入方法や関わり方などの必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる「ボランティア受入担当者交流会」を開催しました。

福祉教育推進では、当事者団体やボランティアグループに協力いただき、講師派遣や体験の受入れ調整等、学校の福祉教育を支援しました。

4 財源確保の取り組みと区社協運営のあり方についての検討

賛助会費は麻生区内の小地域福祉活動を支える貴重な資金であることから、町内会・自治会のご理解のもと、強化月間の2月から募集を開始するとともに、各町会・自治会の事情に合わせて募集していただくなど柔軟に実施しました。今後も区社協事業を継続するために、賛助会員や寄付募集などの財源確保策とその合理的・効果的な活用方法について、次年度も引き続き各取り組みにおいて検討を進めてまいります。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【73,460千円】

【サービス区分事業活動支出 68,140千円】

【共同募金配分金 5,320千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

ア 常任委員会の開催 5回

(5月23日、6月1日、8月28日、10月26日、2月14日)

イ 正副会長会議の開催 3回

(5月18日、8月2日、2月6日)

ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止（書面報告）

(2) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和5年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	2,593名	5,534,500円
麻生東地区	1,636名	2,508,700円
柿生地区	957名	3,025,800円

(3) 寄託金

令和5年度一般寄附 1,960,663円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(4) 寄託品

令和5年度寄託品 29,184円相当

(5) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にかかわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

総合相談（ふくし相談） 相談件数 464件

2 調査・研究事業

(1) 第4期麻生区地域福祉活動計画の推進

コロナ禍の社会情勢により対応や工夫を適宜行い、地域福祉活動の担い手不足に関する養成

講座や防災に関する基本的理解、地域のつながりの強化等を中心に「第4期麻生区地域福祉活動計画」を推進しました。

(2) 第6期川崎市地域福祉活動計画の策定（市区社協一体策定）

令和2年4月、市社協と7つの区社協が法人合併したことから、市区社協が理念や目標を一つに「川崎市社会福祉協議会 第6期地域福祉活動計画」を策定しました。市社協に設置された推進委員会で策定し、各区社協の重点的な取組みについては、区社協常任委員会にて協議・検討しました。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修の開催

今年度は研修のあり方を見直し、社会福祉協議会を取り巻く環境の変化を踏まえた組織づくりや事業企画について考え、実践することを目的とする「区社協会員研修」を次年度より開催していくことといたしました。

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた市社協職員研修や外部研修等に参加しました。

4 企画・広報事業

(1) 第34回あさお福祉まつり事業

区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に、第34回あさお福祉まつりを麻生区との共催事業として開催しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食の販売はせずに規模を縮小しましたが、今年度より飲食の販売を再開しました。

地域の「協働」と「参画」を基本とし、第34回あさお福祉まつり実行委員会を組織し、実行委員会と参加団体が主体となる運営を目指して、事前準備から当日の運営までを具体的に役割分担し実施しました。

参加団体数：63団体（前年度 54団体）

来場者数：約5,500人（前年度 約4,000人）

(2) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 3回（6月16日、10月13日、1月23日）

イ 広報紙「ほほえみ」の発行

年間3回の発行を再開し、81号は業者委託による区内ポスティング、82号はタウンニュー

ースの紙面に掲載、83号は新聞各社の新聞折り込み配布にて発行しました。

ウ ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

エ 「親子福祉探検隊」について

今年度は、事業名称と内容の見直しについて検討しました。令和6年度より「親子・青少年講演会」として実施することにいたしました。

オ こどもへの福祉啓発について

引き続き、福祉教育の際にこども新聞を教材として用いて、福祉啓発を行いました。

カ 「福祉啓発映画会」について

効果的な開催方法について検討しました。

キ 麻生区社会福祉協議会紹介パネルの作成

麻生区社会福祉協議会についての紹介パネルを作成し、あさお福祉まつり、麻生区総合防災訓練にて展示し広報を行いました。

ク 公式キャラクターを通じた展開について

区社協広報紙やホームページ、各種事業開催時にキューちゃんを掲載しPRしました。福祉まつりでは「キューちゃんぬりえコンテスト」を実施（ほほえみ第83号参照）し、合計291作品の応募がありました。また、キューちゃんグッズを福祉まつり内で行われたシールラリーの景品にし、区社協紹介パネルにも掲載しました。

(3) 地域のイベントへの参加協力

ア あさお区民まつり 10月8日

5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、地域包括支援センター及び教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

ア 車椅子の貸出（件数） 364件

イ 福祉器具の貸出（件数） 386件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

ア 賛助会員数	7名
イ 運転ボランティア登録数	9名
ウ 利用件数	72件
エ 運営委員会の開催	
オ 運転ボランティア定例会の開催	

6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

麻生東地区社協	1,841,090円
柿生地区社協	2,383,060円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

27団体（計796,000円）

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成 10団体（1,213,929円）

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

(5) ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

(6) 麻生区交通安全対策協議会への助成 30,000円

7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地

域力の向上を目指して事業を実施しました。

- ア 在宅福祉サービス委員会の開催4回（6月15日、9月13日、12月15日、3月13日）
- イ “つながり” を作って心豊かに生きる講演会（10月27日 対面方式で開催）
- ウ 委員会研修 1回（1月10日）
- エ 「ヤングケアラーとは」懇談会（令和6年2月29日）

（2）広報啓発事業（再掲）

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

（3）子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスをを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

- ア 子育て支援委員会の開催
4回（6月7日、9月11日、11月30日、2月8日）
- イ 「ペアレントトレーニング」参加者交流会
1回（7月3日）
- ウ 子育て関連グループ交流会の開催
1回（10月23日）
- エ 「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』」
4回（11月17日、12月15日、1月19日、2月9日）
- オ 子育て支援講演会の開催
1回（2月6日）
- カ あさお子育てフェスタへの参加（パネル展示）
1回（9月16日）

8 共同募金事業

（1）神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

（2）共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 391世帯 配分実績額 1,955,000円

イ あさおおもちゃとしょかん運営事業

障害を持つ子も、持たない子も、おもちゃを通じてともに遊び、豊かに育つことを目的に運

営を行いました。

開館回数 44回

利用者数 493人

運営ボランティア数 延べ317人

次のウ～コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲）

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ 260,000円、柿生地区社協へ440,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）

9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍における川崎市行政運営方針に基づいて開館しました。

(1) 研修室、フリースペースの貸出

ア 大研修室利用状況	519件（7,453人）	※前年度 503件（6,450人）
イ 小研修室利用状況	248件（1,436人）	※前年度 243件（1,308人）
ウ フリースペース利用状況	481件（2,070人）	※前年度 456件（1,754人）

(2) フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出（件数）

60件（5団体）

10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

(1) 相談件数 1,442件

(2) 新規相談件数 150件

(3) 貸付申請件数 18件

(4) 事務管理終了

償還完了	教育【5】 緊急小口【3】 福祉資金【3】 要保護不動産担保【1】	12件
移管	総合【2】 教育【4】	6件

(5) 貸付調査委員会の実施

1回（7月7日）

1.1 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

4回（7月27日、10月19日、12月18日、2月21日）

(2) 学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2023」

（市社協・各区社協等との共催事業）

①高齢者施設でボランティア！音楽を通じて高齢者と交流しよう！

8月10日、11日

②かぎ針でお花を作ろう！～目の不自由な方のお話と制作～

8月3日、4日

③「にんちしょう」ってなあに?!～記憶のツボゲームで学ぼう!～

7月28日

④「認知症」について当事者から学ぼう!

7月29日

⑤保育園でボランティアをしよう!

8月8日

⑥作業所でハーブティー（レモングラス）を収穫しよう!

7月26日

(3) ボランティア講座の開催

「食でつながる！ボランティア講座」

2回（3月6日、13日）

(4) ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

田園調布学園大学が開催するボランティア専門講座の広報について協力しました。

(5) ボランティアイベントの企画・実施

11月12日に行われた「あさお福祉まつり」において、相談窓口担当者ブースに参画し、来場者からの相談を受けるとともに、各機関との連携を深めました。

(6) 災害ボランティアについての取り組みの推進

① 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

今年度については、「川崎市内郵便局長防災研修」に参加し、区ごとのグループディスカッションにて、各機関（麻生区内郵便局、麻生区役所危機管理担当、麻生区社協）の72時間以内の初動対応について共有し、さらに連携の在り方について協議しました。

1回（2月5日）

② 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けて普及啓発を行いました。

1回（12月2日）

(7) ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

8回（6月6日、7月4日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、2月6日、3月5日）

(8) ボランティア受入担当者交流会の開催

ボランティアを受け入れる福祉施設の担当者に向けて、ボランティアの受入方法や関わり方などのボランティアコーディネートをする上で必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる機会とすることを目的に開催しました。

1回（3月12日）

(9) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和5年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

- ① ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 28件
- ② ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 48件

(10) ボランティア相談コーナーの開設、再開に向けた検討

昨年度まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としていましたが、令和5年12月より再開しました。

4回（毎月第3火曜日）

(11) ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

ボランティア受入担当者交流会の参加申込書にアンケートを作り、ボランティアの受入状況などの現状を把握する取組を行いました。

(12) 広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。

2回（7月、2月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

昨年度まで隔月発行を中止としておりましたが、令和5年5月発行分より隔月で発行しました。

6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

(13) 福祉教育推進委員会の開催

2回（6月22日、3月18日）

(14) 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

①申込件数 31件（延べ件数）

内訳：小学校 26件

一般 5件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 2,815人（延べ人数）

②内 容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

ア 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

1回（8月24日）

イ 福祉教育推進委員会委員研修

1回（3月18日）

ウ 福祉教育に関わる広報啓発

広報啓発委員会と連携し、福祉教育の際にこども新聞を教材として用いて、福祉啓発を行いました。

(15) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、相談窓口・検索サイト担当者会議に参加し、令和5年度の取り組みについて協議しました。

3回（6月13日、7月11日、10月4日）

12 麻生区あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び成年後見制度の利用に向けた相談・支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

- ・日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 894件（初回相談50件、継続相談844件）

- ・サービス契約者数（令和5年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 18名

書類等預かりサービス 3名

(2) 成年後見制度の利用推進

川崎市社会福祉協議会川崎市あんしんセンターでは、川崎市から成年後見支援センター事業を受託し、各区あんしんセンターにおいても成年後見制度利用促進のため、広報や相談・支援を実施しました。

- ・成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 275件（初回相談119件、継続相談156件）

(3) 関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生区高齢者支援カンファレンス（年12回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。

1 3 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

(1) 指定管理事業

ア 老人いこいの家の運営委員会の開催

- ① 王禅寺老人いこいの家 2回（7月13日、1月17日）
- ② 片平老人いこいの家 2回（6月30日、1月29日）
- ③ 千代ヶ丘老人いこいの家 2回（6月27日、2月2日）
- ④ 白山老人いこいの家 2回（7月24日、1月22日）
- ⑤ 麻生老人いこいの家 4回（5月26日、7月14日、10月13日、3月4日）
- ⑥ 岡上老人いこいの家 2回（6月12日、1月24日）
- ⑦ 百合丘老人いこいの家 3回（5月24日、7月20日、1月17日）

イ 令和5年度利用状況 開所日数合計2,058日 利用人数合計59,590人

ウ 令和5年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計115人（1館分）

※千代ヶ丘老人いこいの家については、ボイラー機器故障のため令和5年1月より休止していたが、令和6年3月事業廃止

王禅寺老人いこいの家については、浴室タイル崩落の恐れがあるため、令和6年1月より事業休止

エ 教養の向上及びレクリエーションに関する事業

- ① 教養講座・公開講座 開催回数計620回 参加人数計6,497人
- ② レクリエーション 開催回数計44回 参加人数計2,133人

オ 多世代交流・地域交流に関する事業 開催回数計17回 参加人数計2,133人

カ 健康づくり・介護予防に関する事業

区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力した。

キ 高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進

ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていただけるよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置した。

ク 消防訓練・避難訓練の実施 実施回数計7回 参加者数計182人

ケ 老人いこいの家管理人研修会の開催

- ①普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生およびAED）：川崎市消防防災公社主催

3回（12月21日、1月15日、1月29日） 計30名

- ②いこいの家管理人連絡会議

2回（1月11日、1月12日） 計23名

- ③いこいの家代替臨時職員研修 ※書面による開催 代替臨時職員24名
1回（2月15日）

1.4 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討を重ねました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」としてボランティア活動振興センター内に設置し、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて、麻生区総合防災訓練での広報啓発に合わせて、広く協議・検討することとなりました。

(1) 災害ボランティアについての取り組みの推進（再掲）

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

今年度については、「川崎市内郵便局長防災研修」に参加し、区ごとのグループディスカッションにて、各機関（麻生区内郵便局、麻生区役所危機管理担当、麻生区社協）の72時間以内の初動対応について共有し、さらに連携の在り方について協議しました。

1回（2月5日）

イ 川崎市総合防災訓練（多摩区会場）への参加

市社協・多摩区社協が主催の「災害ボランティアセンター運営訓練」に参加しました。また、事前研修会にも参加しました。

1回（9月3日）、事前研修会（8月30日）

ウ 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けた普及啓発を行いました。

1回（12月2日）

(2) 災害対策・事業関連

ア 事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品の保管・管理を行いました。

1.5 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

- (1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力
- (2) 麻生区民生委員児童委員協議会
- (3) 関係団体の事務協力
- (4) 麻生区賀詞交歓会の共催
令和6年麻生区賀詞交歓会の開催（1月9日）

16 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。